

令和2年度

教育相談・支援主任研修

校内研修実践事例集

目 次

1	いじめ・不登校等予防的生徒指導	…	1
2	アセスメントによる児童生徒理解	…	8
3	協 同 学 習	…	13
4	ライフスキル教育	…	15
5	教 育 相 談	…	20
6	そ の 他	…	28
7	お わ り に	…	45

1 いじめ・不登校等 予防的生徒指導

安佐北区	15番	可部小学校	名前	槇原 かおり
------	-----	-------	----	--------

実施日	令和2年5月26日(火)	時間	16:00~16:20
場所	可部小学校職員室	参加者数	32人

ねらい
いじめや学校渋り、また不登校傾向の児童に対する予防的生徒指導についての研修を行うことで、児童の関わり方や指導の在り方を考える。

形態	いずれかに○(講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 (その他))
----	---------------------------------------

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1 「いじめ・不登校予防的生徒指導」取組計画 (1) 実態把握 (2) 周知 (3) 体制作り ① 学校として ② 学級担任・教育相談支援員として ③ 「ふれあいひろば」として 3 具体的な取組 ① 学校再開までに ② 学校再開して 資料を見ながら説明	・教育センター資料 「いじめ・不登校等予防的生徒指導」 ・徳島県総合教育センター 不登校問題解決のための 「不登校マニュアル」抜粋	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学校の実態に応じた研修とするために、他都市教育センターが作成した資料を活用 </div>

成果
長期休業が続いたので、登校渋りや不登校児童、またいじめ等が増えることが予想されたので、事前に職員に啓発することで、意識して学校再開に向けていけたのではないかと思います。

課題

- 研修をして職員に理解を図ったが、実際学校再開になって次から次へと課題解決困難な事案が出てきた。
- 短時間勤務の為、職員の研修時間をとるのが難しく、今回を除いては印刷物を配布したり、c 4 t h上の連絡掲示板を使っての情報提供をしたりするしかできなかった。
- 研修で理解してもらったことを意識してもらうためにはどのようにしたらよいか課題である。

中区	2番	吉島中学校	名前 今野 大輔
----	----	-------	----------

実施日	令和2年11月20日(金)	時間	16:15~16:30
場所	職員室	参加者数	約30人

ねらい

- ① いじめ予防チェックリストによる各学級、各学年の振り返りを行い未然防止への意識向上を図る。
- ② 生活アンケートの情報共有の方法を理解してもらう。
- ③ スクールソーシャルワーカーのとの連携方法を理解する。

形態	いずれかに○ (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
① いじめ予防チェックリストを配布し、各先生方にチェックリストに当てはまる項目がないか確認してもらう。(2分間) →近い席同士の先生方で、チェックリストの該当する項目を共有してもらう。 →全体の場で発表し交流する。	生徒指導チェックリスト(いじめの兆候サイン)	今野
② 生活アンケートの回覧方法の再確認を行う。 →生徒への素早い対応、迅速な情報共有のために気を付けてもらいたいことを伝える。 →生活アンケートの集約データの閲覧方法を伝え、該当学年だけでなく、全体でいつでも情報が見られることを伝える。	生活アンケートの表紙	今野 上田生徒指導主事
③ SSWの活動内容や学校が連携するときの方法・留意点などをプリントで説明する。 →質問がないか全体で確認する。	生徒指導リーフレット No10	今野

成果

生活アンケートの回覧方法の変更により、より迅速かつ正確な情報が共有されるようになった。また、いじめ予防チェックリストの配布もあり、教員の迅速に生徒に対応する意識も向上し、アンケートへの個々の対応がより早くなったと思われる。

課題

SSWの活動内容等を研修で伝えたが、本校の実際の活用例の情報が古く曖昧であったために、若手教諭の意識の変化は起きにくい結果となってしまった。具体的な活用例等をベテランの教諭に語ってもらい、良さや注意点などを伝えるようにするべきだと感じた。

西区	16番	井口台小学校	名前 米津 高明
----	-----	--------	----------

実施日	令和2年6月5日(金)	時間	14:00~15:00
場所	家庭科室	参加者数	22人

ねらい
協同学習の土台となるスキルの1つである(アサーションスキル)を児童が身に付けていくための授業を紹介、先生方の実践を促すと同時に、いじめ・不登校の未然防止につなげていく。

形態	いずれかに○(講義・演習・事例研究・ 授業研究 ・その他)
----	--------------------------------------

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
○アセスによる児童理解 ・アセスの特徴と構造 ・アセスの結果と児童への支援について(演習)	アセスメントによる児童理解(生徒指導課)	米津 高明
○生徒指導のアプローチ・予防的生徒指導について ○支持的風土のある学級づくりに向けて、具体的な取組をグループで考え年間計画を立てる。 ○協同学習の土台となるアサーションスキルの紹介	予防的生徒指導～支持的風土のある学級づくり～(パワーポイント)	新田 智子
○模擬授業におけるポイント解説 ① 授業で取り上げる具体的事例 ② ワークシート ③ 実践時期 ④ アサーショントレーニングと前後して取り組みたい活動 ⑤ 授業後の継続指導(学んだスキル実践の場を授業の中だけでなく、係活動にも位置付ける。)	模擬授業からポイントについて考えることで、参加している先生が実践への具体的なイメージをもてるようにする	

成果
アサーショントレーニングを模擬授業の形で紹介してもらったので、取り組みやすく、複数の先生方が実践してくれている。予防的生徒指導及び協同学習へ向けての先生方の意識を高めることができた。

課題
今後も予防的生徒指導及び協同学習へ向けての先生方の意識を高めていく上で、年度当初のなるべく早い時期に校内研修を企画していきたい。しかしながら部会・コロナ感染予防等、放課後の会議も多く、それらを精選し、校内研修の時間を確保していくことが今後の課題である。

南区	10番	仁保小学校	名前	瀧口 未由紀
----	-----	-------	----	--------

実施日	令和2年12月23日(水)	時間	15:35~16:10
場所	職員室	参加者数	26人

ねらい
 長期休み明けに遅刻や欠席が多い本校の実態を踏まえ、不登校傾向にある児童への効果的なアプローチを考え、冬休み明けの対策とする。

形態	いずれかに○ (講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1. 本校の実態 ○不登校傾向の児童の確認 ・11月末現在で確認されている不登校児童 ・不登校傾向(登校しぶり, 遅刻, 欠席)がみられる児童 ・ふれあいひろば利用児童 ○本校全体の遅刻や欠席の動向について ○これまでの長期休み明けの様子 ↓ 冬休み明けに向けてできる取組について ○予防的生徒指導について ○生徒指導の3つの機能について ○各学年・学級での取組について ①明日から②冬休み明けに③日々の学校生活において(継続的)の視点で 2. 交流 ○各学年から不登校傾向児童や学年全体への取組について 3. まとめ	不登校傾向児童リスト (生徒指導主事が校内資料としてとりまとめたもの) 長期休業明けに不登校傾向になりやすい実態を全体で確認し、未然に防ぐための具体的な取組について考える 指導資料「いじめ・不登校等予防的生徒指導の推進」	教育相談・支援主任

成果
 冬休み前のこの時期に行うことによって、本校の実態である長期休み明けの登校しぶりや欠席が増える傾向に対して、取組を確認し、学年を越えて共有することができた。また、不登校傾向児童への予防策を考える場となり、予防的生徒指導の重要性について、職員で確認することができた。

課題
 今回の研修で確認した取組が、実際に実行され、不登校傾向の児童が少しでも減少していくよう計測していく必要がある。また、児童の実態は日々変わっていくため、今後も引き続き修正して取り組んでいく必要がある。

南区	2番	大州小学校	名前 藤村 佳奈
----	----	-------	----------

実施日	令和2年8月5日(水) / 25日(火)	時間	15:00~15:50 / 16:20~16:40
場所	音楽室 / 図書室	参加者数	18人 / 19人

ねらい

- ピア・サポートやライフスキルについて理解を深め、学校・クラスの実態を踏まえた指導計画を立てられるようにする。
- ピア・サポートやライフスキルについて理解を深め、学校・クラスの実態を踏まえた指導ができるようにする。

形態	いずれかに○ (<u>講義</u>) ・ (<u>演習</u>) ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<ピア・サポート> 1. ピア・サポートとは 2. 演習 ○八百屋の買い物 ○セブンイレブン ○インパルス ○ピア・サポート・トレーニング 「上手に伝えよう」 ○インパルス	資料① 資料②③④	植田
演習や実践例を中心に研修を実施することで、実践へとつながるスキルの向上へとつなげている		
<ライフスキル> 1. 予防的生徒指導について 2. ライフスキルとは 3. 実践例の紹介	資料⑤ 資料⑥	藤村

成果

<ピア・サポート>

- ・協力したり、相手のことを分かろうと努力したりすることの大切さを感じることができていた。
- ・学級に、1つの目標に向け団結する雰囲気が出た。
- ・振り返りを見ると、今回の授業が、自分を見直すいい機会になり、前向きな気もちになった児童が多かった。
- ・今回学んだことを実生活で生かしている児童がいた。

<ライフスキル>

- ・どんなソーシャルスキルトレーニングを行うのか学校全体で決まっているのではなく、自分のクラスの実態を考慮して選ぶことができてよかった。

・具体的な場面が設定されていたので、それぞれの状況でどのように自分の考えを伝えるかしっかりと考えることができていた。

・「今回学んだスキルを実生活でも生かしていきたい。」と振り返る児童が多くいた。

⇒校内で「予防的生徒指導」の大切さや、「ピア・サポート」や「ライフスキル」の位置づけを確認することで、各クラスの実践に繋がり、校内の「いじめ・不登校等予防的生徒指導」を一步前に進めることができた。

課題

〈ピア・サポート〉

・トレーニングの成果を発揮できる機会（異学年交流等）を設定し、サポート活動の実践→振り返り（改善策や新たな課題）→トレーニング→サポート活動の実践というスパイラル的なプログラムを行って、コミュニケーション能力や自己有用感を高めるのが理想だが、コロナ禍での難しさ（感染対策、授業時数確保等）が課題。

〈ライフスキル〉

・授業で学んだスキルを日常でどう生かしていくが課題。教師がどのような声掛け・支援をすればいいか。

・考え方を学ぶ「道徳の時間」と、行動や声掛けを学ぶ「ソーシャルスキル」の区別を指導者が明確にする必要がある。

⇒今年度新たに紹介した取り組みなので、来年度以降も継続して取り組む必要がある。

⇒教育相談・支援主任としての役割が数多くある中で、一つの取り組みを推進することで精一杯だった。これから少しずつ様々な取り組みを紹介していき、校内に広めていく必要がある。

2 アセスメントによる 児童生徒理解

安佐南区	18番	戸山小学校	名前 木戸 剛
------	-----	-------	---------

実施日	令和2年11月18日(水)	時間	16:10~16:45
場所	職員室	参加者数	30人

ねらい

- ・ 「Q-Uの結果のまとめ」における学級の全体的な様子の捉え方をつかむ。
- ・ Q-Uの結果を学級経営に生かす方法を考える。

形態 いずれかに○ (講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1 Q-Uの開発経緯 2 Q-Uの目標 3 Q-Uの構成 4 教育実践への活用の指針 ・ 学級満足度尺度 結果のまとめの表に、小中学校の児童・生徒の位置を全て転記したものを示し、学校としての傾向をつかむ。 5 カウンセリングの方法	・石井教諭作成のプリント資料による ふれあいひろば推進員やスクールカウンセラーなどを指導者として研修することで、専門的な視点からQ-Uの効果的な活用方法やカウンセリングの具体について学ぶ	ふれあいひろば推進員・スクールサポートスタッフ 石井教諭 松尾スクールカウンセラー

成果

- ・ 今回は、Q-U等について造詣の深い、石井教諭を講師に招くことができた。Q-Uの内容や、活用の仕方を学ぶ機会になった。
- ・ Q-Uの結果のまとめの見方について、全体で確認することができた。
- ・ スクールカウンセラーから直接、カウンセリングの具体を聞くことができた。

課題

- ・ 今回、教育相談・支援主任として、要配慮の児童・生徒の追跡調査の方法を吟味する必要がある。

南 区	6 番	皆実小学校	名前	篠原 美喜
実施日	令和2年8月5日(水)		時 間	15:00~16:00
場 所	職員室	参加者数	35 人	

ねらい
 ・ASSESS の使い方・分析方法を知る。
 ・児童について情報交換を行い、共通理解を深める。
 ・9月からの具体的な取組を考える。

形 態 | いずれかに○ (講義) ・ (演習) ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)

内 容 (研修の流れ) (その後の取組等)	使用資料等 (別添)	指導者等
○4月: ASSESS 実施についての提案 (教育支援部) ○7月: 担任へのアンケート実施及び情報交換① (「逆 ASSESS」: 担当しているクラスの児童の様子について項目ごとに予想し、学年会で情報交換) ○7月: 昨年度の ASSESS の結果 (観点ごとの児童名・児童分布を見ながら現在の様子と比較し情報交換) ○8月: 研修実施「ASSESS を生かそう」 <研修の流れ> 担当者より (10分) 研修の目的・流れの確認 ASSESS の特徴と役割について ↓ ・アセスの概要 ・本校での生徒指導としての位置付けを確認 ・アセスの特徴と役割を確認 演習① (10分) 個人特性票・学級内分布票・学級平均票を配布 ↓ ・それぞれのシートと見方の確認 ・データの読み取り方の確認と演習 ASSESS の活用について (担当者より) (10分) ↓ ・学級分布から考えるアプローチ ・事例を通して (個々・学年の特徴・昨年度との比較から見る共通点と相違点等) 情報交換 (20分) ↓ ・適応感の低い子どもについて記入。 ・クラスの様子についての気付きを記入。 ・具体的な取組を1つ以上考える。(個・全体) ・情報交換 まとめ (10分) ↓ ・9月からの取組等について発表 (各学年1つ) ・管理職より ○10月: 生活アンケート (各月・個々の面談実施と ASSESS 結果の比較) → 担任との情報交換 ○12月: 第2回「ASSESS」実施 ○1月: 分析・情報交換 (1月) → 後期学級運営及び次年度引継ぎに活用	○逆 ASSESS シート (資料2) ○ASSESS 研修資料 ・パワーポイント (資料1) ・情報交換用資料 (資料3・4) 事前にクラスの子どもに対しての先生の主観を確認し、実際の子どもへの適応感と比較することで、調査後の効果的なかかわり方へとつなげる	

成果
 ○今年度は、ASSESS の結果を生かすことに視点を置き、研修を進めた。9月からの具体的な取組について考え、具体策をそれぞれが出しながら、情報共有することができた。
 ○担任の主観的な捉えと児童自身の捉えを、前年度の学年全体や個々の ASSESS の結果と比較することで、客観的な視点をもちながら検討することができた。気になる児童について具体的な状況を基に、情報交換をする学年が増えた。
 ○生活アンケート等の実施と ASSESS の実施や結果は別ものではなく、実態把握や教室運営に関連する情報として捉える意識が少しずつ広がり、アンケートの自由記述での児童とのやり取りの内容を工夫し大切にする担任が見られるようになっている。

課題
 ○次年度の引継ぎの際に活用しやすいよう、データの整理を行う。
 (不登校傾向の児童の様子・学習の苦手さのある児童の実態把握を踏まえた情報の提供等)
 ○時間の設定や内容についての見直しを行う。(2度目の ASSESS の実施時期についての検討)
 ○研修内容の工夫と改善を検討する。(本校は教員の年齢層や経験値の豊かな校内の人的資源の活用等)

南区	1番	荒神町小学校	名前 釘本 紗衣
----	----	--------	----------

実施日	令和2年7月16, 30日(木)	時間	16日 13:30~15:00 30日 14:30~15:30
場所	16日:職員室, 30日:音楽室	参加者数	15人

ねらい

- 課題を持つ児童の把握, 行動の原因・背景を明確にし, 児童理解を深める。
- 課題を持つ児童に対する効果的な指導法・援助法を研究する。
- 教職員の共通理解を深め, 教職員相互の連携を強める。
- 個別のアセスメントを行い, コンサルテーション会議の方法を学ぶ。

形態	いずれかに○ (講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
16日 ①学校適応感尺度についての説明 ②3~6年の学校適応感尺度を用いて, グループで研修会を行う。 ③9月以降の対応の見通しを考える。	学校適応感尺度の各学年の結果 グループで学校適応感尺度を分析することで, 多面的な視点から子どもを理解する	本校教諭 中井俊之先生
30日 ①開会あいさつ ②実態把握・支援シートの発表 →各学年から一人ずつ児童の事例を各担任が報告 (4月からの児童の様子, 児童の気になること, 考えられる背景, 取り組んだ支援について) ③指導助言・全体講評 ④閉会あいさつ	各児童の実態把握・支援シート	スクールカウンセラー 池田ゆりえ先生

成果

- 学校適応感尺度を児童一人一人見ていくと, 気づけていなかった, 児童の抱えている課題が見えてきて, 今後の支援の指標の一つとなった。
- 児童の実態や支援について共有することで, 学校全体で見守ることの意識が再認識できた。

課題

- 今回は児童の事例の報告だけになってしまったので, 支援方法について深める時間が取れれば, いろいろな視点から支援方法を見直しが見直しができたのではないと思う。

東区	1番	福木小学校	名前	信川 裕司
----	----	-------	----	-------

実施日	令和2年8月28日(金)	時間	10:00~10:15
場所	職員室	参加者数	10人

ねらい

本校では、例年3年生以上の児童を対象に、5月、ASSESSを行っている（本年度は臨時休業のため7月に実施）。ASSESSの読み取り方の研修を持つことで、新任の教諭やASSESSを行っていない他校から転任してきた教諭がその結果の効果的な読み取り方を理解し、より学級経営に活かし、問題を抱えた児童を支援できるようにする。

形態	いずれかに○（講義・演習・事例研究・授業研究・ （その他） ）
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<ul style="list-style-type: none"> 自分のクラスのASSESSの結果を用意する。 学校教育開発研究所のHPにあった資料からまとめたパワーポイント資料を見てASSESSについて理解する。 自分のクラスの結果を、同学年の教諭や生徒指導主事、教育相談・支援主任と分析し、どのような支援ができるか検討する。 	学校教育開発研究所 HPより抜粋資料	生徒指導主事 教育相談・支援主任
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 生徒指導、教育相談に関する情報や資料を積極的に取り入れ、校内研修に活用 </div>	

成果

ASSESSについてあまり知らない教諭にも分析方法を伝えることができた。支援が必要と思われる児童について、ASSESSを元に生徒指導主事や私と話し合い具体的な支援について考えることができた。

課題

ASSESSを行ったあと、分析を元にその児童への手立てを考え、具体的な支援による児童の変容を再びASSESSをして確認すべきなのだが、現状では年に1回しかできていない。ASSESSだけにこだわらず児童の変容を確認していく方法を考えていきたい。

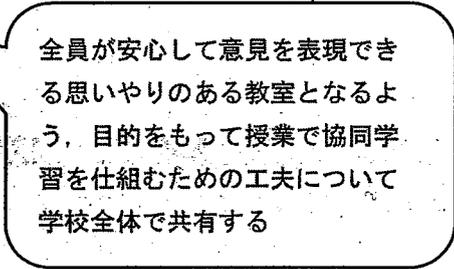
3 協同学習

佐伯区	6番	五日市観音小学校	名前 前田 賀代
-----	----	----------	----------

実施日	令和2年11月12日(木)	時間	14:00~15:00
場所	職員室	参加者数	30人

ねらい
 かかわり合いとともに学ぶ子どもの育成
 ~児童全員が参加し、自分の考えをもつことができる授業づくり(協同学習)~

形態	いずれかに○(講義・ 演習 ・事例研究・授業研究・その他)
----	--------------------------------------

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1 授業に参加するということは	パワーポイント レジュメ	松島生徒指導主事
2 道徳の授業から考える、協同学習の仕方 ① 全員が参加するための工夫 ② 自分の考えをもつことができるための工夫 ③ みんなの意見を共有するための工夫		
3 「思いやり」の土壌づくり		
4 子ども一人一人を見取るとは		前田

成果
 本校は「かかわり合いとともに学ぶ子どもの育成」~児童全員が参加し、自分の考えをもつことのできる授業づくり~を研究課題としている。このような授業づくりを行うためには、表現する楽しさを味わえるような学びの場や、安心して表現できる共感や需要の関係づくりが必要である。その中で「協同学習」を効果的に行うために特に大切にしなければいけないことは、自分の意見だけでなく他者の意見を受け入れ、学級全体で共有できる雰囲気づくりにあると思う。その雰囲気をつくるためにはクラスに「思いやり」の土壌が不可欠であり、それは授業だけで深まるわけではない。子どもたちが学校生活を行う上で、日々声掛けを行う必要があることを伝えることができた。

課題
 子どもの授業への参加を全て見取るとはとても難しいことである。気付きにくい授業への参加の仕方にすぐに気付き、適切に評価することは、授業を行っていく中で常に意識し、実践を積んでいくことが必要である。また、子どもたちのより良い協同学習をするために、これからも「思いやり」の土壌が育つための学級経営を行っていく必要がある。よって今回の研修で終わりではなく、継続した研修や学年内での確認を適宜行い、今後も計画していく。

4 ライフスキル教育

安芸区	1番	瀬野小学校	名前	大内 愛
-----	----	-------	----	------

実施日	令和2年7月10日(金) 令和2年12月2日(水)	時間	10:40~11:25
場所	職員室・1年2組教室	参加者数	17人 (7人)

ねらい
 講義 … ライフスキル教育について理解を深める。
 授業研究… ライフスキルの授業を公開して、ライフスキル教育の意義と授業の進め方を研究する。

形態 いずれかに○ (講義) ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
講義「ライフスキル教育について」 ・ ライフスキル教育のねらい ・ ライフスキル教育の位置づけ ・ ライフスキル教育の年間計画の見直し 授業研究「ライフスキル教育」コミュニケーションスキル ・ 題材「人間カラーコピー」 ・ 授業のねらい 進め方	・ 「教育相談・支援主任研修」 パワーポイント資料 ・ 本校の特別活動の年間指導計画 ・ <u>ライフスキル指導案集</u> ・ 「協力すれば何かが変わる(続・学校グループワークトレーニング)」 図書文化	

64th 書庫に掲載の「ライフスキル指導案集」を用いることで、学年段階に応じたライフスキル教育の取組について具体的なイメージをもてるようにする

成果

- 「ライフスキル教育」のねらいや位置づけについて、全職員で確認することができた。また、ライフスキル教育の年間計画を見直すことで、「コミュニケーション→ソーシャル→アサーション」の順番で題材を入れ、段階的なライフスキル向上の計画を立てることができた。
- 授業研究を行うことで、グループワークトレーニングの行い方を職員に周知することができ、他の学年もグループワークトレーニングを行うことができた。

課題

- 教育相談・支援主任の役割を明確に示すことができなかった。
- 来年度は生徒指導主事と密に連携をし、学校全体で問題行動や不登校の早期発見・組織的な対応をしていきたい。

佐伯区	4番	八幡東小学校	名前 山中 真実
-----	----	--------	----------

実施日	令和2年11月16日(月)	時間	16:00~16:30
場所	音楽室	参加者数	26人

ねらい
 ライフスキル教育についての理解を深め、各学年の取組を共有し、来年度の指導計画に生かす。

形態	いずれかに○ (講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等	指導者等
1. ライフスキル教育とは(講義) <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキル ・ソーシャルスキル ・アサーションスキル 	レジュメ (教育センター資料)	山中
2. 今年度の各学年の実践発表 (授業内容、児童の反応、その後の児童の変化) グループ協議 (実践を聞いた気付き、自学年に取り入れたい内容)	各学年のライフスキル教育に用いた資料	各学年より発表者1名
3. 来年度の「特別活動 年間計画」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ協議した内容を効果的に取り入れる ・低学年・中学年・高学年の各ブロックで、系統性の確認 	今年度の特別活動年間計画	

各学年の実践を聞くことで、具体的な活動や指導法について共有できる
 また、学校全体で系統性のあるライフスキル年間計画の作成へとつながる

成果
 教員が、ライフスキル教育の必要性を再認識し、いろいろなスキル(特にアサーションスキル)について理解することができた。また、各学年の実践を聞くことによって、自学年に今後取り入れたい活動や指導法が明確になった。
 系統性を確認する中で、適時性と累加性についても意識して実施しようと考えが深まった。

課題
 系統性を確認し、来年度の学習に反映させるまでが、本研修の意義だと思うので、継続してライフスキル教育の推進に努めたい。

南区	11番	楠那小学校	名前	菊本 智美
----	-----	-------	----	-------

実施日	令和2年8月5日(水)	時間	14:00~15:00
場所	職員室	参加者数	20人

ねらい
 教育相談・支援主任の位置づけの意義・役割の確認とこれからの方向性の意識統一を図る。
 予防的生徒指導としてのライフスキル教育の意義を学び、具体的なSSTのやり方を周知する。
 担当学年の実態に合わせたワークシート、ふり返りシート作りを行い、本校における取組の実施(11月末まで)分析(12月初旬)確認をする。

形態	いずれかに○(<u>講義</u> ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ <u>その他</u>)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1 学校における教育相談・支援主任とは ・ 全校に設置された経緯 ・ 教育相談支援主任の役割 ・ これからのライフスキル教育の位置づけ	第1回 教育相談・支援主任 研修の資料より引用・参照	校長
2 ライフスキルとは ・ ライフスキルとは ・ ライフスキル教育の必要性 ・ ライフスキルの中のソーシャルスキルを小学校で行うことの有効性	「ライフスキル教育」	スクールカウンセラー
3 本校での取組 ・ SSTの取組(佐賀県教育センター展開例)	佐賀県教育センターHP 参照	教育相談・支援主任
4 ワークシートづくり		各担任

学校全体が一体となって校内研修を進行することで、全員がねらいをもって研修に参加し、課題や必要な知識、技能などが共有できる

成果
 ・ 本市の方向性を校長から話していただき、全職員で意識統一することができた。
 ・ ライフスキル教育について、SCから講義していただくことによって、より専門的な知識を得ることができた。
 ・ 研修の中でワークシート作りを行い、すぐ実践に取り組めるようにした。
 ・ 取り組み後の児童たちのふり返りには、SSTで学んだことを今後の生活の中で生かしていきたいと書かれているものが多くあった。
 SSTで気付いたこと・感じたこと・学んだこと(ふり返りシートより):
 「人の気持ちが知れてうれしかった」[1年]
 「聞きながら聞いてくれてうれしかった」「相づちをうちながら最後まで聞いたらいいことがわかった」[2年]
 「笑顔がないとやさしそうになかった」「あたたかい気持ちになった」[4年]
 「上手な断り方のポイントがわかった」「今日練習したことを生かして、上手に断りたい」[5年]
 ・ 取り組み後の教員も「継続的に温かい言葉かけを意識した学級作りに生かしていきたい」など今後の指導にSSTを生かそうとしていた。

課題
 ・ コロナ禍の中で、マスク使用によってロールプレイの時の表情がわかりにくい取組になってしまった。
 ・ 来年度以降も継続的に取り組んでいく時期と時間を意識していく必要がある。

中区	2番	基町小学校	名前 小川 多恵
----	----	-------	----------

実施日	令和2年5月18日(月)	時間	16:20~16:40
場所	職員室	参加者数	24人

ねらい
 学校や社会で困らないために3方面(社会面, 学習面, 身体面)から子どもを支援するための包括的プログラム・トレーニングを積むことで, 学習の土台となる力(見る力・聞く力・想像する力)と身体的能力の向上を身に付けていく。

形態 いずれかに○ (**講義** ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1 コグトレとは 2 トレーニングの構成 ・困っている子どもの特徴 ・社会面, 学習面, 身体面からの包括的支援 3 1週間の取組 ・月曜日:「注意力をつけるトレーニング」 ・火曜日:「感情をうまくコントロールできるトレーニング」 ・水曜日:「人との接し方を学べるトレーニング」 ・木曜日:「注意力をつけるトレーニング」 ・金曜日:「身体をうまく使うトレーニング」	参考文献:「1日5分!教室で使えるコグトレ 困っている子どもを支援する認知トレーニング122」 東洋館出版社2016年	研究推進委員 研究を担当する分掌が中心となって進めることで, 取組の方向性や内容についての合意形成が図りやすい

成果
 本校は, コミュニケーションが下手, 融通が利かない, すぐに感情的になる, 相手のことを考えずに行動してしまう等, 発達障害だけではなく, 生育環境などさまざまな要因により, 問題行動を起こす児童がみられる。「コグトレ」を毎週, 朝の時間に行うことで, 継続的にトレーニングできるのではないかとと思われる。

課題
 今年度からスタートしたため, 「コグトレ」を通して児童がどのように変容していくかは不明である。今後, どのような形で評価していくべきか検討中である。

5 教育相談

佐伯区	8番	美鈴が丘高等学校	名前 横山 直子
-----	----	----------	----------

実施日	令和2年6月26日(金)	時間	15:50~16:50
場所	本校プレゼンテーションルーム	参加者数	45人

ねらい

解決志向アプローチを根底にした生徒・保護者へのより良い対応の仕方を学ぶ。

- 生徒、保護者との相談対応における基本的考え方を学ぶ。
- 解決を引き出す話の聞き方（質問法）や対応の工夫について学ぶ。

形態 いずれかに○（ **講義** ・ **演習** ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他 ）

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1. 相談対応における基本(講義) (1) 相談対応における基本的な考え方 (2) 相談対応の際のコミュニケーションの基本 2. 解決を引き出す話の聞き方(講義) (1) 相手がクライアント(相談ニーズがある人)になっていない場合の対応の工夫 (2) 相手がクライアントになっている場合の対応について 3. 具体的な面談場面でのシナリオ作り(演習) (1) クライアントになっていない生徒を想定して具体的な面談場面でのシナリオを作成 (2) ペアで共有し、最後に何名かが全体で発表 4. まとめ 研修内容のまとめと質疑応答	パワーポイント ワークシート(別添)	福岡律子先生 (外部講師・ソーシャルワーカー)
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 外部講師としてソーシャルワーカーを招き、学校の実態に合った専門的な知見を得る </div>	

成果

- ・ 事前に若手教員に、普段面談を行う際に困ることを聞き、講師に伝えてあったので、的確なアドバイスを得ることができた。
- ・ 講演を通して、教育相談の意義や基本的な進め方を再認識することができた。
- ・ 具体的場面を想定してシナリオを考えることで、より実践的な研修を行うことができた。

課題

- ・ 一度の研修だけで教育相談の考え方やスキルを身につけることができるわけではないので、日々の実践と研修により、各自が教育相談に関する意義を向上させていく必要がある。

佐伯区	8番	湯来中学校	名前	品川 真輝
-----	----	-------	----	-------

実施日	令和2年5月29日(金)	時間	13:30~14:30
場所	ICTルーム	参加者数	13人

ねらい

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止から長期間の休校となったことによる、生徒の不安やストレスなどの把握と軽減において教育相談に向けての手法や生徒の関わり方について
- 教育相談の手法について再認識し、子どもたちへの関わり合い学び、今後の指導を生かしていく

形態	いずれかに○ (<input checked="" type="radio"/> 講義) ・ <input checked="" type="radio"/> 演習) ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
○VHS視聴 (「生徒の心をつかみたいスクールカウンセリング6」を視聴して教育相談のイメージを感じてもらおう) ○教育相談・支援主任による 「教育相談をするにあたって」のいくつかのポイントを説明する。 ○SCによる教育相談をするにあたっての心構えや聞く時のポイントをロールプレイングで共有する。 ○質疑応答	SC自作の資料 「相談面接の基礎の基礎」 教育相談・支援主任の資料 「教育相談をするにあたって」 生徒指導主事の資料 「教育相談資料」	湯来中学校スクール カウンセラー(SC) 松尾良和 先生 教育相談・支援主任 品川 真輝

成果(アンケートより一部抜粋)

- アンケートなどの事前の情報収集や人間関係を形成することを普段から行うことがいかに大事であるかがわかりました。聴くことを意識して望むことができた。
- 相槌の打ち方、子どもの言うことをかみ砕いて伝えなおす。(言語化しづらい部分を言葉にする。)
- とにかく思っていることを“聴き”ました。思いがうまくまとまっていない場合は、選択肢をだして、訊きました。
- 生徒の言葉をなるべく待つように取り組んだ。生徒が話をしたい言葉がどう表現したらいいかわからない、とまどっていた時は助けとなる言葉かけで共感的な気持ちを持って取り組んだ。

課題(アンケートより一部抜粋)

- なるべく考えさせたが、生徒は言葉にするのが苦手だと思った。
- 内容が濃い研修だったので、時間が不足していた。

安佐南区	2番	安佐中学校	名前 畑本 祐太
------	----	-------	----------

実施日	令和2年8月6日(木)	時間	9:50~10:30
場所	職員室	参加者数	40人

ねらい
 経験年数のない先生方に対して、どのように教育相談を進め、どのような心構えが必要なのかを研修する。経験がある先生方に対しては、これまでの自身の教育相談時の意識を見直し、よりよい教育相談を行うための方法を研修する。

形態	いずれかに○ (<input checked="" type="radio"/> 講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<p>パワーポイント資料を使い、これまでの教育相談でどのような意識だったか、先生方自身にふり返ってもらおう。</p> <p>教育相談で重要になる心構えや技法の研修。</p> <p>現在困っていること、これからどのように教育相談を進めるとよいかを先生方で交流し、発表。</p>	<p>パワーポイントで作成した資料</p>	<p>畑本</p>

困っていることを共有することで、今後の教育相談を行う際の実態に合った留意点を考えることにつながる

成果

- ・ 経験年数が短いゆえに教育相談に対する不安を抱えていた先生方の助けになった。
- ・ 先生方自身の教育相談の在り方を見直すきっかけができた。
- ・ 学校全体で教育相談の方法の統一を図ることができた。

課題

- ・ 基本的な技法に触れることはできたが、現状に対して何ができて、どのような技法や考え方があるのかの研修までなかなか至らなかった。

中区	1番	幟町中学校	名前	新谷 浩
----	----	-------	----	------

実施日	2020年5月22日(金)	時間	9:00~10:00
場所	幟町中学校職員室	参加者数	20人

ねらい
学校における教育相談のあり方と支援者としてのスキルや考え方を学ぶ

形態	いずれかに○ (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ <input type="checkbox"/> 事例研究 ・ <input type="checkbox"/> 授業研究 ・ <input type="checkbox"/> その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1. 令和2年度教育相談年間計画について ①日常的な教育相談 ②週1回の教育相談 ③年間3回の教育相談(生徒が先生を選択する) 2. 専門的スキル ①カウンセリング(手法とエビデンス) ②スクリーニング(手法とエビデンス) ③子どもが安心して話せる7つの方法 ④受容(人のありのままを見つめるまなざし) ⑤傾聴と共感(真心を聴き、ともに感じる力) ⑥キャリアデザインの3つの輪 ⑦自助資源について	研修会資料 PowerPoint PowerPoint	新谷教諭 新谷教諭

目的を明確にした教育相談の在り方やスキル等について、学校全体で共有している

成果

- ① 教育相談体制を詳しく伝えることができた。
- ② 生徒や保護者を支援する者としての基本的なスキルや考え方を教職員が学ぶことができた。特に自尊心を高めることや問題の核心に迫る質問の仕方、受容、傾聴、共感を専門的な観点から考察することができた。
- ③ 生徒の自助資源を掘り下げることで、生徒が自分の言葉で話す機会を多く作り出すことができた。その結果、生徒との間に信頼関係が生まれやすい関係を築くことができた。

課題

専門的スキルは、やはり教師にとってはまだまだハードルが高く、今回の研修だけでは身につけることが難しいと感じている。これらは生徒指導や保護者との話し合いの中で生かされるべきスキルではあるが、相談できるスーパーバイザーが校内にはいないことが大きな課題である。また、定期的に専門的な考え方やスキルについて研修を受けることができないのも課題なのでOJTの機会が限定されてしまう。そこで、今後は心理の専門家であるSCと連携を取りながら、心理面からのアプローチも考えていく必要がある。

安佐北区	27番	倉掛小学校	名前	平田 成美
------	-----	-------	----	-------

実施日	令和2年11月30日(月)	時間	
場所	各場所	参加者数	20人

ねらい
教育相談・支援主任研修で学んだことを他の教職員へ伝え、本校の教育相談体制の推進をはかる。

形態	いずれかに○(講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<p>今年度行われた教育相談・支援主任研修(第1回～第3回)の資料を印刷して教職員に配付。各自で時間のある時に読んでもらい、感想等を教育相談・支援主任まで伝えてもらうよう校内掲示板で周知。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>資料配付で研修を行う際に、配付して終わりではなく、感想を教育相談・支援主任に伝えるようにすることで、実践につながる情報を共有することができる</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回研修資料「一人ひとりの子どもと繋がる教育相談」 ・第2回研修資料「自殺予防の取組(子どもの悩みを受けとめる)～ゲートキーパーとしての役割・対応を参考にして～」 ・第3回資料「生徒指導リーフレットNo.9」「生徒指導リーフレットNo.10」 <p>※研修を受けてメモ書きを付け加えたもの</p>	

成果

- 資料配付という手段にしたことで、感染症対策や働き方改革につなげることができたと思う。
- 他の教職員からは次のような感想が得られた。
 - ・ 配布資料には、主任の手書きでポイントが記入されていたため、注目すべき点が分かりやすかった。
 - ・ 教育相談を進めるための技術が整理されており、日頃自分自身が行っている教育相談の自己評価をすることができた。
 - ・ コロナ渦で子どもや保護者が心理的に不安定な状況になっていることは、大いに考えられるため、このタイミングで教育相談のポイントを教員全体で再確認できたことがよかった。

課題

- 今回は時間的余裕がなかったのでこのような形になったが、来年度は演習・事例研究・授業研究など、もっと学校全体を巻き込んだ研修ができればいいと思う。

中区	12番	神崎小学校	名前 空 安実
----	-----	-------	---------

実施日	令和2年7月10日(金)～7月16日(木)	時間	—
場所	—	参加者数	25人

ねらい
 教育相談の基本について知り、児童へのいじめアンケート後の聞き取りや、夏休み前に行われる保護者向け教育相談で役立てる。

形態	いずれかに○(講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
※今年度は、夏休みが短縮され研修の日時確保が困難であったこと、また密集を避けることを理由として研修の形態を個人研修とした。 ① 教育相談・支援主任が資料「HOW TO 教育相談」を作成する。(昨年度の教育相談・支援研修資料をもとに) ② 教職員に配布し、資料について説明する。 ③ 教職員各自で資料を読み、演習を行う。 ④ いじめアンケート後の児童への聞き取りや夏休み前保護者向け教育相談に役立てる。	・今年度資料「HOW TO 教育相談」 ・昨年度校内研修資料	教育相談・支援主任
	自校の実態に合った自作資料を作成し活用することで、実感を伴って研修内容を共有することができる。	

成果

- ・ 経験年数の短い教職員には、新しい知識を身に付けて教育相談の準備ができる研修となった。また、経験年数の長い教員には、初心に返り新たな気持ちで教育相談に向かう心構えをもつことのできる研修となった。
- ・ 教育相談前に振り返ることのできる資料があることの心強さと、その必要を実感できた。
- ・ 個人研修としたことで、安心して時間的にも余裕をもって研修を行うことができた。

課題

- ・ 個人研修であったため、研修の仕方に個人差がある。
- ・ 指導者が把握できるよう、振り返りなどの工夫を考えればよかった。
- ・ 昨年度の研修を踏まえて研修が重ねられるように、新しく来られた方には別に事前研修を設定することも考えたい。

中区	8番	吉島東小学校	名前	山本 淳子
----	----	--------	----	-------

実施日	令和2年12月15日(火)	時間	15:45~16:15
場所	吉島東小学校 職員室	参加者数	27人

ねらい
 新任教育相談・支援主任研修で学んだことを校内で紹介し、教育相談を実施する上で必要なことを再確認したり、自殺予防について現状を知ってもらうことで今後どのように取り組むべきかを考えたりする機会を作り、日々の教育活動に活かす。

形態	いずれかに○ (講義) ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1. 一人ひとりの子どもと繋がる教育相談 ○資料を配布し、以下の点について特に詳しく説明 ・教育相談の意義 ・教育相談を進める際の留意点 ・教育相談の方法 ・教育相談で用いるカウンセリング技法 ○リーフレットの紹介 2. 自殺予防の取組(子どもの悩みを受けとめる) ○資料を配布し、動画を視聴 3. 新任教育相談・支援主任研修で学んだ研修の紹介	「一人ひとりの子どもと繋がる教育相談」末本指導主事のパワーポイント 「自殺予防の取組(子どもの悩みを受けとめる)」江島指導主事の動画	教育相談・支援委員(山本)

研修を実施する時期を工夫することで、研修したことを意図的に実践へとつなげられるようにする

成果
 「心のアンケート」を実施したタイミングで校内研修を行うことにより、全ての子どもを対象に教育相談を行うことの必要性や、教育相談の際に、様々なカウンセリング技法を適切に使いながら教育相談を進めることが、声なき声に耳を傾けることになるということを確認できた。また、各クラスに掲示してある「聞き方あいうえお」が、教育相談の基本姿勢と同じであることに驚いた・ゲートキーパーという言葉や広島市が令和5年度から本格的に進めていくMLB教育について初めて知った、などの声を先生方から聞くことができ有意義な研修になった。

課題
 「心のアンケート」を集約した後に、実際に教育相談を行う際にどのように進めればよいかを例に挙げて演習を行うことができたら、即実践に活かせるのではないかとと思うので、今後の課題とした。他にも「協同学習」「ライフスキル教育」についての研修を行ったり、SC・SSWの役割や具体的な活動、連携した授業の実践などについても研修を深めたい。

6 その他

南区	4番	広島工業高等学校	名前 菅原 康裕
----	----	----------	----------

実施日	令和2年7月31日(金)	時間	16:00 ~ 16:50
場所	本校 視聴覚教室	参加者数	90人(全日制74人定時制16人)

ねらい
 学校生活に関する様々な人権問題(いじめ・虐待・非行・発達障害・LGBT・ハラスメント・体罰・学校事故など)について、弁護士としての豊富な経験を通して得られた対応や、支援の実際から具体的な示唆を得る。

形態	いずれかに○(<u>講義</u> ・ 演習 ・ <u>事例研究</u> ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1 教育現場からの相談の声 体罰、セクハラ・パワハラ、保護者対応、要求への対応、賠償問題 Etc... 2 ケーススタディ～こんなときどうなる～ <u>事例</u> とある運動部が練習試合のために、県外遠征をした。会場到着後、準備運動をするために、引率教員が会場付近の道路でのランニングを指示した。そこで、生徒のみでランニングを行っていたところ、生徒の1人が車にひかれて、怪我をした。 3 許される制裁・許されない制裁(法教育教材を例に)	法教育教材	弁護士法人あすか 鈴木謙治 弁護士 大橋真人 弁護士 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 弁護士を招き、法的な視点からいじめを考えることで、学校の役割について改めて共有する </div>

成果
 学校の中における生徒間の問題として捉えがちな「いじめ」に関して、法律に照らした際に、どのような問題だと言えるのかという視点に立ち、人権問題としての「いじめ」の捉え方について具体的な示唆を得た。この際、早期に弁護士、警察等に相談すべきものや、生徒の生命、身体または財産に重大な被害が生じるような場合を検証し、教員の「いじめ」に対する法律的な意識の向上が図れた。具体的なケースを取り上げ、その対応を考えることができたため、参加者が「自らのこと」として考えることができ、また体罰や生徒指導に関しても大きな示唆を得た。

課題
 研修で得たことは、その時は納得しても、毎日の職務では慣れ親しんだ日頃のやり方に戻ってしまうものである。この研修で学んだ事を、毎日の職務で具体的に生かしていくために、担当者として様々な場面を利用し、成果を想起する機会を作っていく必要があると感じている。

東区	3番	広島商業高等学校	名前	木村 倫之
----	----	----------	----	-------

実施日	令和2年12月15日(火)	時間	15:15~16:45
場所	本校 プレゼンテーション教室	参加者数	30人

ねらい

1. スクールカウンセラーより「発達障害の理解と対応について」の講義をしていただき、生徒対応の理解を深めるとともに、教育相談に係る技能を高めること
2. 学校全体で情報を共有し、生徒対応を行うと共に教育相談の推進に取り組んでいくこと

形態	いずれかに○(講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1. 「発達障害の理解と対応について」の講義 (1) 主な発達障害について (2) 知能検査 (3) 子どもたちがよく訴える困っていること (4) 二次的な影響 (5) 対応の工夫 2. 質疑応答 3. 情報共有	資料「発達障害の理解と対応について」	スクールカウンセラー 芳西若菜先生

専門的な視点で生徒理解を深め、教育相談に係る技能を高めるためにスクールカウンセラーを活用している

成果

- 発達障害について理解ができたこと。
- 生徒の対応について工夫することについて、教員間で共有することができたこと。
- 今後の生徒対応について、情報を共有する意識ができたこと。

課題

生徒対応について、個別に合う適切な対応を行うため、継続的に様々な指導を行う必要があること。継続的に定期的に研修を行う事が必要であること。

安芸区	1番	瀬野川中学校	名前 上森 雄弥
-----	----	--------	----------

実施日	令和2年5月18日(月)	時間	13:00~14:00
場所	瀬野川中学校3-1教室	参加者数	約30人

ねらい
<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活様式学校版について理解し、生徒の疲弊(ストレス)の軽減を図る 長期休校から明け、生徒との関わり方など、適切なコミュニケーションの取り方を再確認する

形態	いずれかに○(講義) ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1. 現在の状況の再確認(講義)	テキスト(別添) パワーポイント	本校スクールカウンセラー
2. 事前アンケートから質疑応答(講義) 1 「新しい生活様式学校版」に疲弊していく生徒への対応 2 SNS等での目に見えないいじめや子どもたちの人間関係のこじれへの対応 3 休校明け・学校再開に関すること 4 コロナに関連する生徒の対応 5 リーダー性のある生徒への声かけ 6 どういった生徒を・医療機関に繋ぐのか	テキスト(別添) パワーポイント 事前アンケートからの質疑応答をすることで、先生たちにとって必要感のある内容についてスクールカウンセラーから専門的な知見や具体的な対応について学ぶ	

成果 コロナによる休校続きで生徒の気持ちがどのように変化しているのかを考える良い機会となった。生徒のメンタルの小さな変化にも気づき、トラブルの未然防止のための取り組みはもちろん、コロナの対応に学校全体で対応していこうという機運を高めることが出来た。
--

課題 各々のコロナに対する理解は高まっているが、生徒のコロナに対する不安は様々である。学年内、もしくは学校全体での共有を図りたい。またその共有までの流れをつくる必要がある。今後検討し、校内のいじめ防止対策委員会および生徒指導部と連携しながら、実践していきたい。
--

安佐南区	5番	祇園東中学校	名前 貞宗 早苗
------	----	--------	----------

実施日	令和2年4月6日(月)	時間	9:00~11:00
場所	第一理科室	参加者数	35人
ねらい ・ 特別支援教育について共通認識を持ち、要配慮生徒に対する理解を深める。			
形態	いずれかに○(<u>講義</u>) ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)		
内容(研修の流れ)		使用資料等(別添)	指導者等
<ul style="list-style-type: none"> 本校の特別支援教育について 要配慮生徒についての説明(特別支援・不登校・健康面・問題行動・食物アレルギー) 		<ul style="list-style-type: none"> 本校校内研修資料 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 特別支援教育 コーディネーター 学年主任 </div>
成果 ・ 特別な支援を要する生徒の情報共有により、生徒や保護者に対する支援のあり方について、全体で意識統一できた。また、今後の支援・指導に見通しを持つことができた。			
課題 ・ 今回の研修会だけでなく、継続的に情報共有して、支援・指導にあたっていくことが必要である。			

実施日	令和2年 8月 18日(火)	時間	9:30~10:00
場所	職員室	参加者数	35人
ねらい ・ 7月31日(金)に実施したアセスのデータの読み取りを行い、学級および生徒個々の課題を把握する。			
形態	いずれかに○(<u>講義</u>) ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)		
内容(研修の流れ)		使用資料等(別添)	指導者等
<ul style="list-style-type: none"> アセスのデータの見方や考え方について 要支援領域の生徒を学年でピックアップし、今後の支援の方向等を共有する。 		(研修前に配布した学級内 ・ 分布票・個人特性票) 新潟県立教育センター「アセスの理解と活用方法」	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 教育相談・支援主任 </div>
成果 ・ アセスの見方や考え方について、全体で研修することができた。要支援領域の生徒を共通認識するとともに、学校では表面化していないものの、問題を抱えている生徒を把握することができた。			
課題 ・ 積極的に困り感をアピールしない生徒に対する理解や支援の方法についても、丁寧に交流していく時間を確保する必要がある。			

特別支援教育コーディネーター、学年主任、教育相談・支援主任がそれぞれの役割に応じて情報提供したり、研修を推進したりすることが、組織的な体制づくりの推進につながる

西区	3番	己斐中学校	名前 秋山 大地
----	----	-------	----------

実施日	令和2年11月24日(火)	時間	16:00~16:50
場所	本校 視聴覚教室	参加者数	20人

ねらい
生徒理解を適切に行うことと、全生徒に目を配るという視点を持ってもらうこと

形態	いずれかに○(講義 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<ul style="list-style-type: none"> ・学級の生徒の名前を思いつくままに書き出す。 ・後ろから5人の生徒をピックアップし、それぞれの良さ、仲が良い友達、具体的なエピソードを書き出す。 ・学年団に分かれ、ピックアップ生徒の担任意見以外の意見を交流する。 ・まとめ(担任の知らない一面や活躍を感じることができれば、中学校の教科担任制という強みがここにある。) ・研修アンケートに協力してもらう。 	PP ワークシート	教育相談・支援主任

普段見えていないこと、意識していないことについて、気付くことができ、自己の学級づくりについて振り返ることができる

成果(研修アンケートより)
ワークショップ形式の研修だと身になる。自分だけでは見えていない部分がたくさんある。時間が短くても実施できるので、今後やってみたい。経験の浅い先生方にとっては、とても大切な視点だと思う。など

課題
まず、生徒の名前が出てこないなど、先生方に罪悪感を与えてしまう場合がある。
廊下や休憩時間中の過ごし方が見られていないことが多かったので、廊下やなどにも目を配る必要がある。

南区	4番	仁保中学校	名前	上村 舞子
----	----	-------	----	-------

実施日	令和2年11月17日(火)	時間	16:00~16:50
場所	広島市立仁保中学校 職員室	参加者数	18人

ねらい
 教育相談前に、『教育相談の意義』を教員で確認し、生徒の抱える問題などを考えるとともに、生徒が教員に相談しやすい面接の仕方や聞き取り方を共有する。

形態	いずれかに○ (<input checked="" type="radio"/> 講義) ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
①11月に行ったいじめアンケートの結果を確認する。 ・生徒の困り感がどこにあるのかを発見するため。 ・毎月行ういじめアンケートは、集計し、各学年、学校全体の課題などをまとめて資料にしている。 ②アンケートの中で、特に『学校生活』について取り上げる。 *『学校生活は楽しいですか。』『困った時に相談できる友達はいませんか。』『授業がよく分かります。』の結果で『いいえ』が多いことを取り上げ、この3点に繋がりがあることに着目した。 ③教育相談で用いるカウンセリング技法の確認。 ・7月の研修で配布された『教育相談で用いるカウンセリング技法』の資料をもとに基本姿勢を確認。(教師が話すのではなく、生徒の話をしっかりと聴くという姿勢が大切だということを押さえた。) ④教育相談に向けて、あらかじめ生徒に聴きたい内容をピックアップしてもらう。 ・いじめアンケートの結果だけでは教育相談が難しい場合のために、いじめの発見チェックシートや、自己肯定感アンケートを活用してもらうよう伝える。	・いじめアンケートの結果集計用紙 ・講義資料 着眼点を焦点化することで教育相談の目的を明確にし、目的にそったアンケートの分析を行うことで、子ども理解を深める ・7月の教育相談支援主任の研修資料 ・自己肯定感アンケート ・いじめの発見チェックシート	教育相談支援主任 (上村)

成果
 教室に上がれない生徒や、不登校生徒への理解が深まり、なかなか困り感を出せない生徒の気持ちを理解し、生徒が伝えやすいような面談の仕方を再確認するきっかけとなった。
 勉強に対しての苦手意識や、そこから生まれる「自己肯定感」の低下などが共有でき、生徒の関わりあいの大切さもあらためて確認することができた。

課題
 いじめアンケートを毎月とっているが、関係の先生方だけの共有であとは資料配分で終わっている。短い時間でいいので、学校全体で共有できたらいいなと思う。
 長期的な視点に立った計画が作れるようにならなければならないと思う。

佐伯区	17番	湯来西小学校	名前	政池 弘美
-----	-----	--------	----	-------

実施日	令和2年11月10日(火)	時間	16:25~16:50
場所	職員室	参加者数	8人

ねらい
 教職員が全児童の様子を知り、統一した関わりができるようにする。
 教育相談への理解を深める。

形態	いずれかに○ (講義) ・ 演習 ・ (事例研究) ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<ul style="list-style-type: none"> 各学年の児童の様子を担当から報告する。他の教職員が気になることなどがあれば合わせて報告する。 SCより、児童の授業中の様子や個人面談での様子、保護者と面談での様子を伝えてもらい助言をしていただく。 教育相談、専門家との連携についてリーフレットを配付し説明する。 	<p>担任の実態報告、スクールカウンセラーの観察、面談報告によって子ども理解に努めた上で、その後の教育相談の在り方についてリーフレットを用いて考える</p> <p>教育相談の資料 生徒指導リーフレット</p>	<p>担任・教職員</p> <p>SC</p> <p>教育相談・支援主任</p>

<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> SC来校時に毎月1回、児童理解研修を実施しているので全教職員が児童の様子を知り、統一した関わりが出来ている。 児童理解研修以外でも、放課後を中心に児童の様子を交流することができている。 SCと全児童の個別面談や教職員や保護者がSCに相談するなどSCとの連携が十分できている。 リーフレットを活用し、教育相談の意義について説明したので理解を深めることができた。
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の様子を交流することはできているが、具体的な対応について話を進めることができていない。 教育相談・支援主任の仕事が不明確である。

佐伯区	16番	湯来東小学校	名前 良玄 弘美
-----	-----	--------	----------

実施日	令和2年12月1日(火)	時間	15:45~16:30
場所	湯来東小学校	参加者数	9人

ねらい
ワーキングメモリーについて、ただしく理解し、支援を要する児童への対応について、具体的な事例をもとに理解することで、本校の児童へ適切な支援を行っていくことをめざす。

形態	いずれかに○ (講義 ・ 演習) ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<ul style="list-style-type: none"> ○研修の流れの確認 ○ワーキングメモリーについて <ul style="list-style-type: none"> ・ワーキングメモリーとは何か ・ワーキングメモリーが低い児童の状況 ○児童支援の具体的方法について <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な支援とNGとなりやすい支援 ・環境整備 ○質疑応答 	<p>専門的な視点で子どもへの効果的な支援を行っていくために、心理の専門家であるスクールカウンセラーを活用している</p>	<p>SC 松尾良和先生</p>

成果

- ・「ワーキングメモリー」ということについて、体験を通してわかりやすく理解できた。特に、脳が「記憶」「整理」「削除」という大変な作業をおこなっているということを体感でき、児童の行動を思い図ることにつながった。
- ・支援の方法として「苦手を補う」「二次障害を防ぐ」という視点を学ぶことができた。
- ・定期的に本校へ来校され、児童の状況もよく見てくださっているSCの先生のお話は、児童の様子にそっての内容でもあり、日々に直結する研修ができた。
- ・今後、各学級児童の個別の状況について、日常的に相談してみようという一斉提案ができ、SCとの連携を密にしていくための橋渡しの機会になった。

課題

- ・研修したことを、今年度の児童への支援に活用するということや、研修の続編なども設定したりすることができるという点からすると、研修の時期は、夏休みまでに実施するとよかった。
- ・今回の研修内容では、45分という時間設定では、短かった。
- ・児童への支援について、指導者の話をもっと聞きたいということや、質疑応答をする時間が少なかったという感想があった。特に、NG支援の話や本校の児童への個別支援の具体例について交流する時間をもっととってほしかったという感想が多かったので、内容設定と時間配分について検討が必要だった。

佐伯区区	5番	五日市観音西小学校	名前 下岡 隆三
------	----	-----------	----------

実施日	令和2年7月14日(火)	時間	9:30~11:10
場所	校内図書室	参加者数	26人

ねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの事例を分析し、学校体制の問題点を捉える。 ・分析した問題点をもとに、本校の学校体制の強みと弱点を確認する。

形態	いずれかに○(講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1. いじめ死亡の事例を読み、学校側としての課題を個人で付箋に書く。 2. グループで話し合い、付箋をワークシートに整理してまとめる。 3. グループごとにまとめたことを発表する。 4. ワークシートや他のグループの発表をもとに、グループで本校の学校体制の強みと弱点を考え、付箋に書く。(※いじめ対応に限らずに書く。) 5. グループごとに付箋を発表しながら模造紙に貼り、全体で共有する。	広島市立中学校の生徒の死亡事案に係る調査報告書について(報告) 事例を主観的な視点で分析し、自校の体制や取組を振り返るために活用している	

成果 <p>事案の分析やグループ協議により、いじめ対応に対する職員の意識が高まった。また、組織として一貫した指導を行ったり、より密な連携をしていける体制を整えていったりすることが大切だということを確認することができた。</p> <p>また、本校の学校体制の強みと弱点を改めて確認することができ、今後の課題が明確になった。強みはチームワークということが確認できたので、強みを弱点の克服に活かしていきたいと意識統一ができた。</p>
課題 <p>具体的な校内体制づくりを今後、何からどう行っていくかを、校内で考えていく必要がある。</p>

安佐南区	22番	長東西小学校	名前 河野 祥子
------	-----	--------	----------

実施日	令和2年11月19日(木)	時間	14:40~15:15
場所	職員室	参加者数	16人

ねらい

「子どもが安心して相談できる教育相談体制の充実を目指して」

- ・教育相談の意義について理解し、現在の学級の状況を振り返る。
- ・ASSESSの特徴や活用の仕方の理解を深める。
- ・ライフスキル教育の定義や教育活動への位置付けについて考え、スキルトレーニングについて体験したり、理解を深めたりする。
- ・いじめや不登校等「未然に防止する」という意識を共有する。

形態 いずれかに○ (講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
1. なぜ、今、「教育相談」なのか 2. 現在の学級の状況の振り返り(H31校内研修実践事例集尾長小学校の実践から) ・学級の児童の名前を思いつくままに書き出す。後ろから2,3人について肯定的な働きかけを学年間で話す。 3. ASSESS ・ASSESSのめあて、特徴、構造、6因子、学級分布図の見方や事例を基に、アプローチの仕方について理解を深める。 4. ライフスキル教育 ・定義 ・実践例 ・傾聴スキルトレーニング ・エゴグラム・意思決定スキルトレーニング 5. 最後に 平成31年度生徒指導協議会講演資料実践発表エンドロールを読む	・「一人ひとりが子どもとつながる教育相談」リーフレットから抜粋(令和2年7月広島市教育委員会) ・教育相談・支援研修資料冊子 ・「学級づくりに役立つライフスキル」(白石孝司著) ・平成31年度生徒指導協議会講演資料(エンドロール)	教育相談・支援主任 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「いじめ見逃しゼロ」に向けた決意を教員全体で再確認するために有効な資料を選ぶ </div>

成果

多くの教職員がASSESSの見方や活用の仕方が分かり、主観だけでなく2回目のASSESSではよく分析し、個人の目標やアプローチの仕方を参考に学校生活に役立てたいという意識をもつことができた。また、今回の研修を通して、担任それぞれが自分自身の子どもの関わりを見直すきっかけとなった。「弱い立場」を常に考え、その立場に立って物事を考えたいという意識をもつことができた。

課題

研修を受けた感想で「ASSESSを活用したい」「余裕をもって子どもたちと接していきたい」「ライフスキル教育を取り入れていきたい」など児童の様子をしっかり見て関わりたいという声があったが、同時に日々の学校生活が多忙であることも感じ取れた。研修時間の確保をしたり、現在の教育活動に無理のないように、計画を位置づけ、実施したりすることが今後の課題である。

安佐南区	14番	山本小学校	名前 齋藤 あづさ
------	-----	-------	-----------

実施日	令和2年10月27日(課)	時間	16:00~16:20
場所	職員室	参加者数	40人

ねらい

- 教育相談支援主任の役割を理解してもらう。
- 協同学習の重要性について理解してもらい、その具体的な方法を提案する。
- 担任から教育相談支援への相談のきっかけを作る。

形態	いずれかに○(講義) ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	--

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<p>○教育相談支援の役割について説明する。</p> <p>○協同学習について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同学習とは何か ・協同学習のねらい ・協同学習の流れ ・協同学習を具体的にどのように進めるのか <p>○教育相談支援の役割の再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場合に相談すればよいのか ・齋藤がどのような動きができるか 	<p>パワーポイント</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「わかっているだろう」ではなく、再確認することで、組織体制の基本となる教員一人ひとりの意識統一を図る</p> </div>	齋藤

成果

教育相談支援主任の役割をはっきりさせることで、誰に相談すればよいのか分からなかったという担任の先生方からの相談が増え、ケース会議につなげることができた。また、児童の様子を見に来てほしいという相談や、どのように協同学習を進めればよいのか実際に教室にきて手伝ってほしいという相談もあり、担任の先生方の困り感を理解し、これからの活動につなげることができたと思う。

課題

私自身が特別支援学級の担任をしているということもあり、特別に支援が必要な児童の相談に偏っているように感じる。不登校や問題行動などの児童については、あまり把握できていない。もっとしっかりと生徒指導主事との連携をとり、進めていく必要があると感じる。また、SCとの連携が足りないため、その課題をどのように克服していくかを考える必要がある。

南区	5番	比治山小学校	名前	中本 好美
----	----	--------	----	-------

実施日	令和2年5月28日(木)	時間	14:00~14:30
場所	体育館	参加者数	47人

ねらい

- 新型コロナウイルス感染症対策による学校の臨時休業に伴い、児童は様々な不安を抱えている可能性がある。授業再開するにあたり、児童の心身の状況を把握し、心のケアを行うため、スクールカウンセラーの講話を聞いて、6月1日から児童を受け入れる準備をする。
- 児童が、安心して学校生活を送ることができるようにするための手立てを考える。

形態	いずれかに○ (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<p>1 導入(ストレッチ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心と体をすっきりさせると共に、教師も臨時休業によっていつもとは違う疲労があることを自覚する。 <p>2 学校再開に向けての心構えを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の気持ちを受け入れて聞く。 ・児童の様子を観察する。 ・児童への声掛けをする。 ・保護者への声掛けをする。 <p>3 質疑応答</p> <p>4 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校再開に向けて スクールカウンセラーからの提案」 中学校区スクールカウンセラー ・「子どもたちのメンタルヘルスを守るために 学校再開へのメッセージ」 子どもの発達科学研究所 ・「新型コロナウイルス感染症にかかわる子どもの心のケアについて」生徒指導課(資料1) 	<p>スクールカウンセラー 新本先生</p>

スクールカウンセラーならではの専門性を生かした効果的な研修

成果

- 長期の休校で、児童は外出ができずに自宅で過ごし、テレビや新聞などのニュースで新型コロナ感染症の情報に接することが増えた。児童は遊びや運動の機会がなく、心は不安定になっている。このことをまず理解し、授業再開に向けて児童の気持ちの把握が必要であることが分かった。
- 授業再開後は、児童は不安な気持ちをもっていることを前提に、児童の心身の状況を把握すること、そのための方法と教師の心構えを確認することができた。
- 授業再開後は、児童の様子を観察や声掛け、アンケート、個別の面談を行い、実態把握をする。必要に応じて、保護者と連携すること、スクールカウンセラーなど関係機関につなぐようにすることを、教職員で共通認識することができた。

課題

- 初めの1週間は午前中みの授業であり、児童の心身の状況をつかみにくい。「児童は不安を感じている」ことを前提に、全教職員が安心感を与える声掛けを行わないといけない。
- スクールカウンセラーの話から、教職員が共通認識をもつことはできた。担任によって支援の度合いが変わる可能性がある。学年など、チームで考える、チームで取り組むようにしたい。

安佐南区	11番	安北小学校	名前 谷 博利
------	-----	-------	---------

実施日	令和2年12月7日(月)	時間	16:10~16:40
場所	職員室	参加者数	29人

ねらい

アセス実施の意義を理解する
 概要を確認し、結果の見方について理解する
 MLB教育について経緯、概要、今後のスケジュールについて確認する

形態	いずれかに○ (<input checked="" type="radio"/> 講義) ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
MLB教育について 経緯、現段階における概要と今後のスケジュール <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;"> MLB教育指導案(C4th 書庫掲載)を紹介することで、SCと連携したMLB教育について見通しをもつ </div> アセスについて 本校における実施の意義と位置付けについて 内容(6因子)、相関、分布表の見方	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 命を大切にする教育(MLB教育)説明資料 MLB教育指導案(5年) 上温品小取組事例(花束の言葉) </div> アセスメントによる児童生徒理解	谷

成果

今後実施されるであろうMLB教育について知ってもらうことができた。3年後に全校実施となるということで、高い関心を持って聞いてもらうことができた。

アセスの相関や分布表の見方に関し、わかりやすく説明し、しっかりと理解してもらうことができた。本校でのアセスの位置づけ(スクリーニング検査的なものとして)を再確認してもらい、生活アンケートとともに予防的生徒指導の土台になっていることの意識付けができた。

課題

アセスをスクリーニング検査として以上に活用するには、経験や視点が圧倒的に足りていないように思う。またあふれる仕事にさらに上乘せしていることから、定期実施をしてはいるが、取り組む側の意識次第では形骸化や取組中止になりそうな気がする。

西区	2番	三篠小学校	名前 田村 円香
----	----	-------	----------

実施日	令和2年7月～12月(計3回)	時間	毎回15分程度
場所	職員室	参加者数	40人

ねらい
 ①いじめアンケートの聞き取り方法 ②ゲートキーパーについて ③問題行動の対応方法
 児童に対する適切な声のかけ方を中心に職員同士の共通認識をはかる。

形態	いずれかに○ (<input checked="" type="radio"/> 講義 ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)
----	---

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
<p>教育相談支援主任だよりを基に15分ほど講義を行う。(実施時間を短く、回数を多めに設定)</p> <p>第1回 いじめアンケートの実施方法や聞き取りのポイント、保管方法などについて講義を行った。</p> <p>第2回 夏休み明けに研修で得たゲートキーパーについて講義を行った。</p> <p>第3回 いじめアンケート実施に際して、問題行動やいじめの聞き取りの仕方、教員同士の動き方、保護者連絡の仕方などの講義を行った。</p>	<p>教育相談支援主任だより 第1号</p> <p>教育相談支援主任だより 第2号</p> <p>教育相談支援主任だより 第3号</p>	<p>教育相談支援主任</p> <p>教育相談・支援主任だよりを定期的に発行するだけでなく、研修資料として活用する</p>

成果
 昨年度、「教育相談支援だより」を作成し、今年度も同じ取り組みを行った。昨年度、教育相談支援だよりをもとに研修を行うとよいとアドバイスをいただいたので、その時期に応じた必要な情報を提供できるように心がけた。
 また、暮会の「児童の連絡」のあとに毎回、1～2分程度のエピソードを話したり、ふれあい教室についての在り方について話をしたり、講義時間とは別に毎週実施することができた。

課題
 回数が少なかったため、もう少し回数を多くすればよかった。残りの3か月でもう少し取り組んでいきたい。

東区	3番	温品小学校	名前 兼重 聖美
----	----	-------	----------

実施日	令和2年11月10日(火)	時間	16:25~16:45
場所	職員室	参加者数	22人

ねらい

- 今年度の教育相談支援主任研修より得た最新の情報を共有する。
- 児童生徒の自殺の現状とその予防について学校で共通の認識を持つ。

形態 いずれかに○ (講義) ・ 演習 ・ 事例研究 ・ 授業研究 ・ その他)

内容(研修の流れ)	使用資料等(別添)	指導者等
① ゲートキーパーとは ② 自殺の実態 ・コロナの影響で全体の自殺者が増えていることも付け加えて説明。 ・具体的な数字も伝えた。 ③ 心配な児童の状況 ④ ゲートキーパーとしての役割と対応のポイント ・気をつけたい対応も ⑤ MLB教育について いじめ防止対策推進教諭 荒木先生より ・「いじめの見逃し0」を目指した認知の重要性 ・事実確認の聞き取りの方法について ⑦ 「温品中学校区生活習慣づくり部会」から ・リストカットの対応 ・来年度の指導計画の中に「ライフスキル教育」を位置付け、集団への適応力や人とつながる力、立ち直る心を育てていく。	令和2年度 教育相談支援主任研修より 教育相談で用いるカウンセリング技法 生徒指導主事作成の資料	兼重 生徒指導主事 小島

いじめ対策推進教諭から話を聞くことで、本市の取組や、校内体制の在り方について共通認識をもつ

成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自殺の実態について、学校で共通認識をもつことができた。 ・ 「ゲートキーパー」「MLB教育」などの最新の情報を伝えることができた。 ・ 温品中学校区の現状について共通認識をもつことができた。 ・ 来年度の指導の方向性について考えることができた。
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も、学校全体で、問題行動や不登校の早期発見・組織的な対応を継続していく。 ・ 「学校生活アンケート」の実施の際、「詳細聞き取り用紙」を使い、聞き取り内容に漏れのないようにしていく。 ・ 「いじめ見逃し0」を目指し、学校全体で取り組んでいく。 ・ 学校を取り巻く環境の変化に対応していくため、最新の情報を学校全体で共有し、児童のために最善の選択ができるように研修を継続して行う。

7 おわりに

小学校

白島	<p>今回の研修は、教育相談・支援主任の立場や役割をあらためてみなさんに周知できる機会となった。また、「教育相談指導者養成研修」の報告も行うことができたので、学校の教育相談の在り方を全教職員に伝えることができた。研修後、「目の前の子どもたちが見えていますか」「不登校は初期対応が重要」「余裕のある先生」「教師とカウンセラーの違い」などの内容が印象に残ったという声があった。また、本校では、「開発的教育相談」や教育相談の技術の研修が必要だ、国分先生の構成的エンカウンターをやってみたい、という意見もあった。このように、学校全体で不登校や生徒指導上の問題における教育相談について考え、共有することができた。</p>
幟町	<p>いじめ・不登校等予防的生徒指導に関わる教育活動が日々の学校生活にあることを意識することができた。本校で実践している教育活動や「たてわり班活動」なども予防的生徒指導にあたることを確認することで、教師自身がその意義を意識して実践することができるようになると考える。</p>
袋町	<p>校内で初めてQUを実施し、普段の様子では表面化していない学級の児童が明らかになった。そのため、担任だけでなく、校内でその児童の情報を共有することで、学校全体で個々の子をより気を付けてみていく支援体制を築くことができた。また、各学級担任が学級集団の傾向をQUを通して知ることで、客観的に学級をみる視点をもつことができた。そのため、後半の学級経営ですべき目標を明らかにし、取り組むことができた。</p>
竹屋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み明け前に全教職員と共通理解を図れたことで、夏休み明けの1週間の間に各担任が一人ひとりと面談を行えた。(定期教育相談) ・ いじめアンケートを実施したあとに随時教育相談を行うが、それとの区別ができた。 ・ 子ども一人一人とつながること、安心して話せることの大切さを伝えることができた。
千田	<ul style="list-style-type: none"> ・ SSWの役割 SCとの違いがよくわかった。 ・ 関係機関だけでなく校内での連携も含め、学校で子どもを育てていく視点が確認できた。 ・ 具体的な事例を示したことで、自分のクラスの子について、相談も相談したいなど、児童理解を深めることにつながった。
中島	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校では、昨年度からアセスを実施し始めたが、昨年は初年度のためアセスの役割や実施方法の説明だけに集わってしまい、結果の活用までいかなかった。その反省をもとに、今年度はアセス実施後にアセスの結果分析の方法や児童の見取り方について研修し、気になる児童について交流することができたので、その後の指導に役立てることができた。 ・ 教育相談の意義や基本姿勢について全体で研修することにより、共通理解することができた。 ・ 「ゲートキーパー」という言葉を初めて聞く職員も多く、研修で新しい情報を伝えることができた。
吉島	<p>低学年でも分かりやすい場面・言葉遣いを意識した。 テレビ放送では、朝会ではできないフリップを映し、視覚的に伝える工夫をした。 教員からも「困った場面」の意見を取り入れた。 「相談の仕方」についての劇を考えた。</p>

広瀬	先生方から「アセスの見方がよく分かった。」「今日の話がすごく参考になった。」という意見をいただいて研修を行った意味があるなど感じた。そして、この研修を行うために、改めてこれまでの研修を振り返ったり、アセスの見方を勉強したりしたことで、すごく自分自身にとっても勉強になった。今回の研修を通して、これからも積極的に先生方に情報を発信していきたいという想いをもつことができた。
本川	<ul style="list-style-type: none"> 対象者を限定し少人数で実施したことで、児童への思いが共有し易く連帯感ももてた。 自分の思いを話す役と受け止める役を演習で体験し、「客観的になれた」「視野が広がった」「次に踏み出す具体的行動を見いだせた」等、児童理解につながる前向きな気持ちをもてた。 少人数で実施することで、踏み込んだ気持ちのやりとりにつながり相談スキルの成功体験になった。
舟入	教育相談・支援主任研修やいじめ対策推進教諭のアドバイスを受けて、「ライフスキル教育」の年間計画を作成した。指導についても具体的に示すことができ、全学年で発達段階に応じた取組を行えることは成果である。また、「ライフスキル教育」の必要性を周知することで、自己肯定感を高めることなど、予防的生徒指導の大切さにも先生方の意識が高まったと思われる。
江波	<ul style="list-style-type: none"> アセスの見方や活用方法について理解を深めることができた。 アセスから見えてきたことと予防的生徒指導の取り組みのつながりを理解することができた。 いじめアンケートの結果から本校の課題を確認することができた。 いじめや問題行動が起きた時の組織的対応について再度確認することができた。
上温品	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに研修を行ったことで、9月に全員に行う個人面談で生かすことができる。また、先生方が共通認識をもてたので、ぶれることなく児童と同じ指導ができる。 「いじめ対応ハンドブック」を見直す、よい機会になった。 「ゲートキーパー」という言葉を初めて聞いた先生がほとんどだったので、役割や対応について知ってもらうことができた。
戸坂	<ul style="list-style-type: none"> センターのweb研修で学んだことをしっかり伝えることができた。 「子どもが相談しやすい大人でありたい、信頼される教員でありたい」という感想をもった教職員がたくさんいた。 教職員が一人一人自分の教育活動を見つめ直すよい機会となった。
戸坂 城山	<p>(全児童への教育相談を実施しての感想)</p> <p>全員するというのは、特別感がなくて、みんなが安心して受けることができた。</p> <p>1人1人顔をしっかりと見て話しができてよかった。</p> <p>その子の新たな一面も知れてよかったし、少し向き合い方を変えようと思う。</p>

東 浄	<ul style="list-style-type: none"> 子どもへの声かけや、聞き方について改めて振り返り、日常の小さなことから一つ一つ丁寧に見直していく機会となった。 教職員全員がゲートキーパーになり得ること、その対応や留意点について考えることができた。 専門家については、本校では複数の教職員が連携を深めており、改めて支援体制についての確認を行うことができた。 命を守るための教育について、生徒指導主事からの実践報告を加えることにより、MLB教育など教職員の意識が高まった。
中 山	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談の意義を改めて確認できた。 子どもと繋がるためには、子どもをよく見て表面だけでなく背景等にも目を向け、言葉かけをし、理解しようとするのが大切だと改めて確認した。
牛 田 新 町	<p>全職員に研修内容を伝えることで、教育相談への理解を深めたり、MLB教育の基本理念を確認したりすることができた。さらにメンタルヘルス研修でスクールカウンセラーからカウンセリングの応答の仕方について演習を通して学んだことで実践力を高めることができた。</p>
早 稲 田	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談の目的や意義、進める際の留意点などを改めて教職員全体で確認する機会にすることができた。 教育相談の場面をロールプレイングで演示し、カウンセリング技法を実際にどのような場面で用いるかを具体的に啓発することができた。 ライフスキル教育を校内全体で推進していくための啓発をすることができた。
牛 田	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uについての基本的な特徴や結果の見方を伝えることができた。 Q-Uの結果を実際に分析して、児童の実態を理解することができた。 要支援の児童への対応を具体的に考えることができた。
尾 長	<p>登校しぶりが見られそうな児童の保護者とコンタクトを取ることができたので、休み明けの欠席者は非常に少なかった。本校は、3年生以上は教科担任制をとっていることから、多くの目で児童の様子を見ることができるようになってきた。</p>
矢 賀	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の児童の実態に合わせた計画を立てることができた。 指導資料を使って計画を考えることで具体的なイメージをもって計画を考えることができた。
青 崎	<ul style="list-style-type: none"> ゲートキーパーとして教員ができること、やるべきことを確認することができた。 普段の子どもとの関わりの中で、意識しておくポイントや、声掛けの仕方など、具体的な例をあげながら説明したことで、教員一人ひとりが明日からできる心がけについて共通認識することができた。
段 原	<p>本校で初めて実施する hyper-QU のねらい、内容と構成、実施方法、結果の見方と活用方法について知ることができた。</p> <p>hyper-QU を結果のみを絶対視するのではなく、児童理解の一つの資料であることを認識し、平素から継続的に子供達の様子をしっかり観察しておく必要があることが分かった。</p>

翠町	1年生なので、語彙が少なく、なかなか定着が難しかったが、いろんな教科でペア学習を繰り返し行うことで、自分の考えを友達に伝えることができるようになってきた。自分とは違う考えも認めることで、他を認める雰囲気作りができてきているように思う。また、振り返りを行うことで、自分の考えに自信をもったり、違う意見にも共感したりしていた。
大河	<ul style="list-style-type: none"> アセスの見方を確認することで、児童の見立てができ問題行動の未然防止に役立てることができることを共有することが目的であった。
黄金山	<ul style="list-style-type: none"> ライフスキル教育は、教師が児童の実態にあわせて、人間関係に関わるスキルを身に付けさせることなので、年間計画に沿ってその知識と技術を練習する機会は意義があったと考えられる。
宇品東	<ul style="list-style-type: none"> アセスの目的や概要を確認することで利点を把握し、緊急の支援を要する児童を注意深く観察することができた。 対応策を学年で話し合うことで、指導方法や配慮事項を共有することができた。
宇品	<ul style="list-style-type: none"> ゲートキーパーについて周知できた。子どもたちの対応のヒントになればと思う。
元宇品	<ul style="list-style-type: none"> 演習を行うことにより、教職員自らが体験し、つらさや心理状態を共感することができた。 LD, ADHD の特徴を知り、支援の具体がわかった。
似島小中	<ul style="list-style-type: none"> アセスは、満足度であることを知った上で、学校生活の中で教師が感じている子どもの様子とアセスを合わせてみていくことが大事だということが分かった。 学年で児童生徒の様子や普段感じていることなど共有する機会が持ててよかった。児童生徒理解に努めることができた。 今後どのような支援をしていくべきか検討したことを基に、児童生徒への教育相談を日常化していきたい。
似島学園	<ul style="list-style-type: none"> エゴグラムテストを活用し、自己分析の結果から、自分の生徒指導のスタイルや本校における生徒指導の在り方について、教職員で確認することができた。 自己分析により、これまでの児童との関わり方について振り返り、今後の関わり方について、教職員間で話し合うことができた。
向洋新町	<ul style="list-style-type: none"> アセスを行う目的や、6因子について周知を図ることができた。 6因子の相関関係について周知を図ることができた。
大芝	<ul style="list-style-type: none"> 思いを表出できていない子どもたちの特徴についてメンタル面だけではなく便秘や皮ふの症状などの身体面とのつながりについて周知することができた。 子どもの実態と保健室での対応を分析して所感を伝えることで、傾聴の重要性を理解してもらうことができた。 傾聴の練習や自身の体調管理について職員に課題を与え、全員で実践できるように素地を整えることができた。
天満	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの技法を紹介できたので、実践にいかしたいという意見があった。 教育相談は個別指導とは違う一面があることが伝えることができた。 頷いたり相槌を打ったりしながら話をすると、暗くいやな雰囲気にならないことに気づくことができた。 「話をしよう」という雰囲気を作ることが大切であることに気づけた。

観音	<p>SC・SSWの存在や役割について、よくわかっていない教職員もいたので、それを伝えることができた。本校は、課題を抱える児童が多く、SC・SSWの存在は欠かせない。その状況を伝えることはできた。</p>
南観音	<p>初めてASSESSを行う教員も複数いたことから、実際に担任学級の資料を手元にもってから研修会を実施したことで、児童の様子を思いうかべながら実態の把握をすることができたようだった。また、担任が思っていた児童像と実際の適応感とのズレを確認することで、勘ではなく尺度を用いたデータをもとに児童の困り感を把握したり、子どもとの関係を考え直したりする機会となった。</p>
己斐	<p>研修で学んだ内容を教職員全体で共通理解することができた。理論だけでなく、「明日使えるスキル学習」と銘打って、いくつかの実践例を紹介した。実際自分が学級で取り組んだ手応えも報告できたので、啓発になったのではないかと思う。学校全体の予防的生徒指導の向上に期待したい。</p>
己斐東	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分を振り返る良いきっかけになった。 ・ 傾聴の演習を通して、子どもの立場で考え、感じるすることができた。 ・ 具体例があったので、イメージがしやすく、実践してみようという気持ちになった。 ・ 傾聴しているつもりでも、傾聴できていないことが分かった。
山田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の意義や方法、留意点を確認することができた。 ・ 「おまじりの12の型」を通して、自らの普段の児童とのかかわり方を振り返ることができた。 ・ 演習を通して、教師の言葉を児童はどう感じるのか体験することができた。黙って聴く、うなずく、相槌を打つ、教師の言葉ではなく児童の言葉を口にする（くり返す、言い換え・要約する、気持ちを汲む）ことで、児童は、自分の気持ちを伝えやすくなったり自分の気持ちを知ったりすることができることが分かった。
古田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談を積極的に実施することの意義が共通理解できた。 ・ 予防的生徒指導の重要性が確認できた。
庚午	<ul style="list-style-type: none"> ・ QUを例示しながら比較し、アセス独自の「生活満足度」について理解が深まった。 ・ アセスは実施するだけではなく、分析することで児童の意外な一面が見えてくることについて理解が深まった。 ・ アセスの両輪として、協同学習へ着目してもらいきっかけとなった。
草津	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症で、大人の気持ちの変化も確認することができ、教員自身の今の状況を理解することができた。 ・ 不安な状況の中登校する児童を捉える視点を持つことができた。
鈴が峰	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談と説諭は同時に成立するものではなく、傾聴の大切さを共通理解することができた。 ・ ゲートキーパーの言葉の意味と「つなぐ」という役割を教師が捉えることや、様々な機関と連携して児童の命を守っていくべきであることを深く理解することができた。
井口	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフスキル教育の重要性を改めて共通理解することができた。 ・ 本校の児童の実態と照らし合わせ、現在の年間計画見直す機会となった。

井口 明神	「ゲートキーパー」について知っている人は一人もいませんでした。「ゲートキーパー」はその子ども、その生徒指導に対して校内で取り組むときの要となる人、それはその子ども、その生徒指導の問題に関わるすべての人ですと話して、だれもがゲートキーパーになっているのだと話しました。この言葉を知ってもらえたことが、今後の生徒指導の問題解決の一步になったと思います。
己斐上	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフスキル教育の講義だけでなく、模擬演習を行ったことで、児童がどのように感じるのか、教師自身が実感を伴うことができた。 ・ 模擬演習の際、児童への声かけの仕方や、対応の仕方など、場面を想像しやすく、実践したい気持ちが高まった。
高須	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談について、教職員の共通理解を図ることができた。 ・ 日々の教育活動の中での活用を促すことができた。
古田台	経験の少ない先生が増える中、教育相談の留意点や基本姿勢を確認することができ、実際に一人ひとりの子どもとの教育相談をしていくときに生かすことができた。隔週で来校するスクールカウンセラーと全員が話をする機会があり、それぞれの学級の児童について連携する際の留意点を再確認することができた。
八木	教育相談については、「傾聴」することや共感しながら「受容」することの大切さを改めて確認することができた。ライフスキル教育については、学習としてスキルを身につけていく方法だけでなく、普段の生活や授業の中で、身につけていく方法について講義した。当たり前のことではあるが、意識するかしないかで児童に響く量は変わってくる。今回研修したことで、先生方それぞれが意識したいポイントを研修内容から見つけ、これから子どもたちに意識して接していこうという感想をいただき、研修のやりがいを感じた。
緑井	短時間で少ない内容だったため、必要な情報をピンポイントでしっかりと伝えることができた。課題の種類に応じてどのような取り組みが効果的か知ってもらえた。また、保護者への教育相談に生かしてもらえた。
川内	自主参加だったが多くの先生方が参加して下さった。自身が研究している特別活動は、互いを尊重し合って生きることの大切さを学ぶことにより生徒指導上の問題を未然防止できる。それらの実践提案と共に、教育相談主任として伝えたいことを盛り込み、若者からベテランの先生まで、幅広く研修に参加して下さった方と一緒に「ソーシャルスキル」「安心できる集団作り」などについて考えることができ、有意義な時間となった。
中筋	「教育相談」について、教職員全体で理解を深めることができた。その中でも、「傾聴・受容」だけでなく、具体的なカウンセリング技法についても確認することができたことが大きい。
古市	新型コロナウイルス感染予防のため、校内研修の機会が少なかったことで、日頃の悩みや困っていることについて、学年を超えて出し合うことができ、話しやすい雰囲気や相談しやすい雰囲気を作ることができた。 ベテランの先生から、学級経営の工夫について、具体的な話を聞くことができた。
大町	今年度本校では初めてのアセスの実施だったので、このような研修会をもつことで、職員でアセスのねらいや活用方法について共通理解をはかることができた。2回目のアセスを全学級で12月に行い、それをまた学級経営や児童理解につなげることができる。

毘沙門台	<ul style="list-style-type: none"> 子供の考えを引き出す聞き方など、実践的なことの共通認識を図ることができ、普段の教育相談においても、それを生かすことができています。 自クラスの子供だけでなく、他クラス・他学年の子供もみんなで見ていくという意識統一ができた。
安東	<ul style="list-style-type: none"> 気になる児童を一覧にまとめると、学集面で配慮が必要な児童、本人の特性、家庭環境、不登校や行き渋りなど、すでに教員の気づきによって、課題が表面化しているものも多く見られた。 一方、学習も友達関係も問題ないと見られていた児童が、4因子も40点以下があるなど、意外な発見をすることもできた。
上安	<p>児童の困り感を正しく見取るためには、まず自分自身が事実を的確につかむことが大事だということが改めて分かった。</p> <p>佛圓先生に、具体的事例を紹介していただくことで事実を的確につかむ瞬間というものがあるということがよく理解できた。最後に話された、『生徒指導上の問題行動は授業が改善されることで改善していく』、という言葉が心に残っている。</p>
安	<p>実態把握の方法の調査法の一つとして、アセスについて理解を深めることができた。</p>
安西	<p>昨年度アセスの全体研修を行い、アセスの本格的実施のため、3学年以上の各学年1クラスがモデルクラスとしてアセスを実施したが3回目がコロナ対策で実施できなかった。計画通り、今年度からアセスを実施することになった。新型コロナウイルス感染症予防対策があったため、予定より遅れてアセスを実施した。家庭で過ごす時間が長かったためアセスの実施は有効であったと思われる。それは、各学年で結果を分析し情報交換することで学校全体の実態を全職員に周知することができた。今後継続的に進めることができるようにしたい。</p>
祇園	<ul style="list-style-type: none"> いじめの定義について、クイズを交えながら、教職員で共通理解を深めることができた ASSESSについて教職員に理解を促す機会をつくることができ、ASSESSを実施する意味がより明確になった。
長束	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の背景にあるものについては、いじめや不登校だけでなく、様々な問題行動に悩む先生方の、児童の見取りの手助けになった。 課題が顕現している児童に対する生徒指導だけではなく、すべての児童へのアプローチについて考えるよい機会になった。
原	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーと連携し、研修を計画、進めることができた。 児童や保護者への対応の仕方、面談を行う際の声掛けの仕方やポイントについて研修できた。 アンガーマネジメントの方法を知り、面談の際の受容姿勢づくりの大切さについて研修できた。
原南	<p>本校で8月初旬にアセス（1回目）を行った後であったが、何のためにアセスを行うのか共通理解を図ることができた。今後も、いじめの早期発見、いじめ見逃し0にするために、友達アンケートとアセスを活用し、児童が安心して過ごすことのできる学級集団づくりをしていくことを教職員で確認することができた。</p>

伴	<p>昨年度は研修時間を30分と設定していたが、それでは説明が不十分なところがあったので、本年度は45分間の研修時間を設けた。そのため、アセスの見方と活かし方についておむね説明することができた。また、参会者に多少ではあるが、アセスの結果に基づく活かし方を考えていただく時間を設けることができた。</p>
梅林	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の意義や基本的な進め方について、共通理解を図ることができた。また、それぞれの教員が、自身の教育相談について振り返ることができた。 ・ 現在の学級の状況を振り返り、「その他大勢」にしない・見逃さない意識を高めることができた。 ・ 「ゲートキーパー」という言葉を知らない教員が多かったので、これから始まる「命を大切に教育」について理解を深めることができた。
伴東	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任一人が児童からの相談にあたることが多いが、本研修を通じて、少しでも学校という組織で色々な方向から支援・相談ができるのだということが理解できた。 ・ 児童のシグナルを、上手に受け取り解決する方法を理解することができた。
大塚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査資料の活かし方を理解することができた。 ・ ASSESSの有益生も伝わった。 ・ 2回目の検査へと続けることの意義を理解することができた。
伴南	<p>予防的生徒指導として日々の授業や活動で実践できることについて、情報提供はできた。問題が起きてからの対応よりも、日頃から心がけていくことを中心に話を進めるようにしたのでどの立場の教職員にもより身近に感じてくれたのではないかと思う。</p>
東野	<p>今までは、学校生活の中で見取っていたことはある意味主観的な部分が多く、問題視できていないことも多かったが、この子には、このような特徴があったのかと客観的に自分の学級の様子を見取ることが出来た。それを踏まえて、特記されている児童をきめ細かく観ることができるようになり、予防的生徒指導に活用することが出来た。</p>
春日野	<p>一昨年から継続して、予防的生徒指導の大切さについて研修を行っている。そのため、多くの先生が共感し、理解を深め、実践することができている。</p>
井原	<p>研修の後、「相手を見て」「いい姿勢で」「うなずきながら」「笑顔で」「終わりまで」聞くという5つの観点を意識させて児童同士で会話を行わせた結果、「うなずきながら聞いてもらえてうれしかった。」「笑顔で聞いてくれて話しやすかった」などの感想が出た。</p> <p>その後、様々な教科で児童の傾聴の様子を見てみると、傾聴スキルを行う前より、相手を意識して話を聞く姿勢が少しずつではあるが、見られるようになった。</p> <p>この姿勢を評価しながら、くり返しトレーニングを行い、自分の話をきちんと聞いてもらえる喜びをしっかりと体験させて、児童一人ひとりの自己肯定感を育てていきたいと思う。</p>
志屋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の様子を知ることができ、教職員で統一した指導をすることができる機会となった。 ・ スクールカウンセラーの役割を再確認し、連携するポイントを知ることができた。 ・ スクールソーシャルワーカーの存在を知る機会となり、どんな時に連携するのか等、具体的に知ることができた。

高南	研修の時間が十分にあったので、自身の児童への対応を考える時間が持てた。 先生方お互いの対応の仕方（言葉がけ）を見ることができたので、参考になった。また、新任の先生の研修にもなった。
三田	教育相談の概要について知ってもらい、教育相談をするときの意識啓発ができた。
狩小川	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談の大切さを伝えることができた。 教育相談の形態や方法について、若い教員にも知らせることができた。
深川	<ul style="list-style-type: none"> アセスの読み取り方や活用の仕方を交流したことで、先生方によって受け止め方が違い、その違いが大変参考になった。この研修後に、アセスの読み取りを各学年で実施したが、研修したことを参考にして、より児童理解に役立てることができた。 ライフスキル教育は、初めて耳にする先生方ばかりだった。予防的な児童生徒指導のために、実践していくこと、また生涯にわたって心の健康づくり（自己肯定感を育む）のために大切なことが認識できた。演習では、授業の中で生かせる他己紹介を通して活動することや具体的な授業づくりの演習をしながら、学ぶスキルを教えていただいた。その上で、私たち教師側が生徒指導の3機能を与え、育むことが大切だと思った。このライフスキル教育を通して、子どもたち自身の課題を解決していくために、達成感や成就感を味わわせていく役目が私たち教師にあると実感した。 不登校児童への対応については、支援の視点「学校のみに登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童自らが進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指すことを私たち教員の認識として大切にしたい。深川小では、今年様々な不登校傾向の児童に対応しているが、支援の視点を常に心において、児童と向き合っていきたいと思った。子どもへの理解を大切にして、今後の実践に役立てていきたい。
亀崎	<ul style="list-style-type: none"> アセス実施前にも研修を行いアセスの特徴などを伝えたが、実施後にもう一度研修を行うことでより他の先生方に伝わったのではないかと感じた。 全職員でアセスの結果を共有することで、担任外の先生が児童と関わる際にも支援が行えると思う。本校は児童も少ないため、全職員で児童と関わっていく必要があると思う。 具体的な支援をグループで考えたことによって、自分自身もいろいろな方法を知ることができ、いろいろな面から考えることができたのはとてもよかったと思う。
真亀	本校では「サポートルーム」を開室し、担任やSC等と連携を図りながら不登校傾向のある児童や教室での学習が困難な児童に学習支援を行っている。教育相談や支援の在り方、基本姿勢について、共通理解を図ることができた。
落合東	<ul style="list-style-type: none"> アセスの実施は毎年行っていたが、構造や特徴を確認することで、改めてアセスの有効性を実感することができた。また、他の教員にも知ってもらうことができた。 アセスを実施し、教師から見る児童像と児童自身が見る自己像の相違に気付くことで、児童への指導・支援の仕方を考えたり、予兆のキャッチにつなげたりすることができると感じた。 いじめアンケートと異なり、学級分布も知ることができるため、自身の学級経営の見直しにつなげていくことができる。
落合	大切なことの再確認ができた。

口田	<p>教職員が、児童、保護者と話すとき、思いを受け止めることができるようになってきている。いじめへの対応、不登校防止に成果が表れた。</p> <p>いじめの認知、対応が迅速に行われるようになった。児童一人ひとりの思いを受け止めることができるようになってきた。</p> <p>学校行事で生き生きと活動したり、日常生活で落ち着いて行動したりする児童の姿が見られるようになってきた。</p>
大林	<p>「ゲートキーパー」という言葉自体を初めて聞いた先生や、自殺の実態を知らない先生方もいたので、周知することができ、より一層児童の変化に対する意識を高めることができた。今後のMLB教育について考えるきっかけにもなった。</p>
三入	<p>今年度は年4回（現在3回目）SSTを各学級で取り組んでもらうことができた。また、毎月学校生活アンケートを行うことで、各学級担任が児童の悩みや不安を把握しやすくなった。昨年度同様、毎週火曜日の職員暮会で児童の様子や配慮事項等意見交流できた。</p> <p>教員経験年数が少ない担任の先生方を中心に上記の校内研修に参加して頂いた。学級で取り組んでもらうSSTの模擬授業をワークショップで体験することや、私なりに取り組んでいる規律や約束（授業を通して学級経営を行うこと）について、伝えることができた。</p>
可部南	<ul style="list-style-type: none"> ASESSの活用を考える機会となった。また演習を通して他者と交流することで理解が深まった。 ASESSの活用と同時に、様々な課題を抱える子どもたちに、より丁寧な教育相談を夏休み明け後も行っていくことを、教職員で意識統一できた。
亀山	<p>研修後、内容について、積極的に質問を受けた。また、自身の担任学級の児童について多面的に分析し、様々なアプローチの仕方を考えたり、そこから実際に指導につなげようとしていた教職員の姿も見られた。</p>
亀山南	<p>配慮の必要な児童の実態について定期的に報告・共有することで、組織全体で児童への支援を考える意識を高めることができた。また、報告を受けて、管理職や担任、SSWと相談してケース会議を行い、配慮の必要な児童に対して具体的な実践を考え、実践することができた。</p>
鈴張	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談（鈴張あのねタイム）を導入することができた。 中学校の教育相談時の事前アンケートをもとに、独自のアンケート作成し使用してみた。（各学年の担任やスクールカウンセリングにも相談） 実施後の担任の振り返りで、「児童理解に大いに役立った」「互いを知るチャンスになった」「児童は、緊張しているようだった」「児童の家庭の様子もうかがえた」と、取り組みの成果があった。1年に2回取り組み、高学年のアンケート用紙は保存しようと考えている。 アセスの取り組みは、定着している。

飯室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令に準じて考えることで、解決への筋道が明確となり、意見が出やすくなった。 ・ 具体的な事例をもとにしたので、全員がイメージを持って考えることができた。 ・ 改めて「保護者等に単独判断で即答するのではなく、持ち帰って相談する。」「困難な要求をする背景の気持ちや事象を突き止める」などの共通項を確認することができた。 ・ その確認の上、他の事例でも応用ができるのではないかという方向性が見えた。
筒瀬	<p>教育相談の意義や留意点など、実施する上で必要な事柄について改めて全体で確認することができた。学校生活アンケートの直前に実施したことで、より効果的な教育相談に向けての意識づけができたと思う。併せて、自殺予防については、私たち一人一人がゲートキーパーとしての役割を求められていること、教育相談におけるカウンセリング技法を用いた対応や他留意点について、共通理解することができた。また、本校のSCと事前に打ち合わせの持ち方などについて確認させていただいたうえで、全体に一層の連携をよびかけることができた。</p>
日浦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の意義や留意点について、教職員の中で改めて共通の認識を図ることができた。 ・ ゲートキーパーの役割や対応について、詳しく説明し、学校にいる教職員すべての人が、ゲートキーパーになることが、自殺予防になるということを伝えることができた。
久地南	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の在り方として、再認識できたこと。コロナ禍だからこそ今一度気にしないといけない気持ちに教員全体が共通認識をもてた。 ・ 自殺が多いことを踏まえ、教育相談にはゲートキーパーの役割もあることを伝え、子どもの命を預かっているという重たい責任を忘れてはいけないことを再度意識することができた。 ・ 演習を通して、具体的な接し方や話の聴き方、返し方などの理解を深めることができた。
三入東	<p>大変落ち着いた学校ではあるが、子どもたちはそれぞれに困りごとや悩みを抱えている。そんな子どもたちに寄り添い、役に立てる大人になるには、カウンセリングマインドが不可欠であり、傾聴は、その中で活用されるとても大切な技法であることを学んだ。</p>
中野東	<p>SCが家庭訪問やT2での授業に参加できるなど知らない教員が多かった。SC・SSWの役割や活動、学校のチームの一員として専門家の意見を聞くことの大切さや、担任一人で抱えるのではなく、学校のチームとして、連携して対応することの重要性を伝えることができた。</p>
中野	<p>いじめの認知とその校内対応について、学校内で共通認識を図ることができた。</p>
畑賀	<p>スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと関わりをもったことがない教員は、動画を見たり他の教員と話し合ったりすることによって、スクールソーシャルワーカーの役割や活動がよく分かったようであった。教員とは違う、心理学的視点で児童の見立てをしてくださることで、より児童理解が深まり、見通しをもった支援や取組を進めていけることが分かった。来校される日にいじめ防止委員会などの会議が開かれるとは限らないので、「打ち合わせ」を密にして、家庭や諸機関との連携にもしっかり関わってほしい。</p>

阿戸 小中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校においては初めてアセスを実施する職員も多く、アセスの見立てからの支援や取組の考え方を研修できた。中学校では昨年度からアセスを実施しているが、昨年度からのアセスの研修をしているため、見立てがスムーズにできるようになった。 ・ グループ3人で1学級の結果を検討することで、多角的な視点で学級を見ることができた。 ・ 結果を検討する前に「アセス（学校適応感度）の結果の検討」のワークシートを利用することで、主観的な見方とアセスの結果からみえる客観的なデータの違いを実感することができた。 ・ 小中学校合同で実施することによって、7学年分の情報を職員で共有することができた。
船越	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスの内容や活用方法について理解を深めることができた。 ・ 実際にアセスを分析し、学年内で共有することで、児童の実態を多面的に捉えることができた。
矢野西	<p>SSW とふれあい教室については、直接関係する教員が現実にはあまりいない（クラスの子供もがSSWやふれあい教室に関わるのがあまりない）ので、情報として知っておくことに価値はあった。特に、矢野西小には若い先生が多いので、今後の対応の選択肢の一つを増やすことができた。</p> <p>生徒指導事例とその対応については、本校で実際にあった事例や起こりうる事例を選んだので、間接的に「トラブルの際はこうすればよい」という具体的な動きを伝えることができた。</p>
矢野	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートを分析することで児童の実態を積極的に把握することができた。 ・ 講義や「一人ひとりと繋がる教育相談」「専門家との連携」を印刷して配付することで、知らなかった教師が認識し、共通理解ができた。 ・ 全校児童の教育相談を冬休み前までに行うように取り組み中。（12月7日現在） ・ 専門家の役割を共通理解できたので、早期にきめ細かく対応しやすくなってきた。
矢野南	<p>アセスについての理解を深め、見取り方を演習することで、色々な視点で児童を捉えることができた。</p> <p>普段あまり問題のない児童のように見えても、児童自身が満たされない思いを持っていることもあるということが分かり、アセスの結果を分析・活用することで児童理解に生かしていきたいと思った。</p>
みどり 坂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを取り巻く状況に触れることで、問題行動が増えていることに気付くことにつながり、なぜライフスキル教育や教育相談が必要となるのかについて考えを深めることができた。 ・ 子どもも教職員も悩みや課題について、一人で抱えこまず、相談できる場所や人がいることが大切であり、変化や気持ちに気付くことができるようにすることが重要であると共通理解をもつことができた。
石内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談を進める際の留意点やカウンセリング方法などを、再度見直すことができた。

河内	<p>校内研修前にスクールカウンセラーに研修内容をお伝えしたところ、MLB教育について情報交換をすることができた。再来年度から実施するにあたり、来年度には具体的に計画を立て、年間計画に組み込まなければならない。次回の校内研修のために一緒に作戦を立てようということで、一歩前進できた。</p> <p>また、コロナ禍で例年以上に忙しい状況にもかかわらず、教職員が前向きにとらえ、協力的であることがとてもうれしかった。</p>
八幡	<p>管理職や生徒指導主事、特別支援コーディネーター、学年主任、それぞれの立場から情報交換をしたり、具体的な手立てについて考え研修したりしていくことで、共通の理解をもって各事案への対処を考えることができた。また、迷っていることや困っていること等を共に考えることで、それぞれの負担を軽減したり、アドバイスし合っってよい案が出てきたりした。また、今回の内容を後日資料配付することで、学校全体へと広めることができた。</p>
五月が丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今なぜ「教育相談」が必要なのか、効果的に行うためのやり方や形態について周知することができた。 ・ 専門家の役割や連携の仕方、一人で抱え込まず課題の解決に向けてチームで取り組むことの大切さについて伝えることができた。
美鈴が丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフスキル教育については全く知らなかったという若手の教員や、実践してはいても、ストレスマネジメント、アンガーマネジメント、仲間の圧力に関する授業は今までやったことがなかったという熟年教員がいた。これを機に、ライフスキル教育の具体的な内容を知らせることができてよかった。 ・ 今回、演習した内容については、いじめ、不登校、ADHDの子どもたちにとって効果があるのではないかと感想があり、今後の授業実践への意欲が見られた。
五日市中央	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談主任の役割について伝えることができた。 ・ ソーシャルスキルというものについて周知できた。
五日市	<p>担任からは、「最初に見たときは、赤（要支援）が目にとまってショックだったが、意外な子どものSOSに気付くことができた」や「生活満足感の結果がよくて安心したが、詳細をみると、手立てが必要な子どもがいることがわかった」などの声があった。アセスについて深い理解をすると、学級経営に有効活用できることに気付いてもらえたのではないかなと思う。</p>
五日市東	<p>アセスの見取り方について説明をする中で、質問も出てきて、分かりにくいところを全体で確認することができた。</p> <p>結果を出すところまでに留まっていた先生がおられた中で、要支援者となっている児童を書き出し、今後の対応を考える時間を設けることができた。その中で、教員側の見取りと、児童の結果が異なっていた場合に、「これからしっかり観察したい。」という思いを持たれた先生が複数おられた。</p>
五日市南	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめアンケートを実施する際、問題の早期発見のために、カウンセリングの技法を活用し、何かあればいつでも相談できる関係づくりを意識した面談を行うよう意識できた。 ・ 広島市の公的な専門機関について理解し、気になる児童を支援につなげるための校内組織を活用するよう周知できた。

楽々園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談・支援主任研修で学んだ内容を教職員全体で共通理解することができた。 ・ 開発的アプローチの一つとしてのライフスキル教育や協同学習の必要性や実践方法について確認することができた。
藤の木	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悩みを抱えていても、相談できない子供もいるとことについて、共通認識できた。 ・ ゲートキーパーの役割から、日頃子供たちに関わる際のヒントをもらった。
彩が丘	<p>各クラスにいる配慮を要する児童に対して、各担任がどのようにアプローチしているか共有することができた。また、それを共有することで担任以外の教員がその子たちにどのような支援をするべきかを再確認することもできた。</p> <p>学校全体で配慮を要する児童を支援していこうとする意識を強くすることができた。</p>
湯来南	<p>問題の早期発見・早期対応のため、必要とされるのがより機能的に進化した教育相談であること、変化に気づき、声をかけて、しっかり話を受け止め、つないで見守る過程のこと、傾聴の中の大切なポイントなどを伝えることができてよかった。</p>
石内北	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の意義や進め方について、全教職員で共通理解を図ることができ、近年課題の深刻さから、改めて教育相談の重要性を認識することができた。 ・ アセスの内容や活用方法について理解を深めることができた。

中学校

国泰寺	<p>全体での研修ができず、リーダー研修をした後に各学年で研修をした。コロナの影響でできないことも多く、各学年でモデルクラスを作り、先に演習してみたりとリーダーを中心に工夫をしながらできることを実践していった。学年の責任者を決めたのがとても良かった。</p>
江波	<p>ASSESSを行う目的と、観察法、調査法、面接法を組み合わせた生徒理解の重要性について理解してもらうことができた。また、個人特性票と学級内分布票の分析の仕方を確認することで、後日に行われる生徒理解研修でのASSESSの活かし方についても確認できた。</p> <p>本校生徒が行ったASSESSの結果を例に挙げることで、学校での生徒の様子や、実際に教師と生徒、保護者が行ったやりとりまでを含めた説明をすることができた。</p>
温品	<ul style="list-style-type: none"> ・ hyperQ-Uだけでなく、年間の教育相談計画を4月から示すことができた。そのため、1つ1つの取り組みの目的や位置づけが曖昧なまま実施される、ということにはなかった。 ・ 生徒指導主事、学年主任、管理職の連携のもと、教育相談に関わる資料(①交友関係アンケートの原本、②教育相談計画と記録、③hyperQ-Uの分析結果)は、学年から管理職まで目を通すことができた。これを夏と冬の研修で振り返ることにより、各学級の実態がブラックボックスになることもなく、全体共有できた。
戸坂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早速、1年生の中に怒りのコントロールがうまくできない生徒が複数いるという声があり、研究係の立案をもとに、9月、11月にアンガーマネジメントの授業を2回行うことができた。 ・ 感染症拡大への不安など本年度特有の状況を踏まえ、生徒部の係と連携し9月以降の教育相談期間を普段より長く設定した。また、修学旅行での友達との活動について気になる生徒をピックアップし、教育相談でこちらからアプローチするという学年の動きにつながった。

牛田	教科指導力の向上を図り、生徒理解につなげるためには、教材研究を通して教材に向き合い、適切な課題設定をすることが授業づくりをする上で最も大切であることが分かった。また、生徒の見とりを行う際には、生徒同士の机の距離、机上の空間の使い方に注意を払うこと、ホワイトボードや教材などを使っての交流のやり方から生徒の関係性を的確にとらえようとする意識や視点をもつこと、生徒の気持ちを考えた立ち位置から生徒を支援することや話し合いをしている生徒の言葉をつなぎ、生徒に返すことで協同学習をスムーズに進めることができることなどを確認することができた。
二葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校が直面する課題を、教職員全体で共有することができた。 ・ 事例を扱うことで、教育相談のあり方についてより具体的にイメージすることができた。 ・ 教育相談の基本を意識しながら対応することが、その後の児童生徒や保護者との関係のあり方にもつながることを再認識することができた。
福木	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気になる生徒、支援が必要な生徒を具体的に説明することで、全教員に問題が持てたことがよかった。 ・ 職員会議等で、生徒の様子を報告するが、具体的な数字が出ることで問題点がより明確になった。 ・ 意外な生徒が出てくるので、今後の指導の資料にもなる。
早稲田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自殺防止の取り組みとして研修を行ったが、生徒の実態把握や、傾聴スキルなどの再確認ができた。 ・ 生徒のレジリエンスのためのライフスキル教育の大切さも確認できた。
大州	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスの活用方法を共有できた。 ・ 6月からの学校再開を前に、生徒理解の方法を研修できた。
段原	教育相談を学校体制の中で位置付け（5日間5時間授業で教育相談期間を設ける）、今年度第1回は「コロナ関連」の教育相談（アンケート調査：生徒の不安や心配に寄り添い傾聴する）を実施。第2回に向けてアセスの有効な活用方法について資料を添えて、説明（研修）した。
翠町	12月に行った学校評価アンケートでは「悩み事などを相談できる先生が翠町中学校にいます。」という項目で肯定的回答の割合が77%と、前回（7月）の学校評価アンケートから6ポイントのアップであった。
楠那	<ul style="list-style-type: none"> ・ ASSESSについて、概要を理解するとともに、どのような結果に着目するべきか、参加者全員で共通理解することができた。 ・ 実施したASSESSについて、実際に参加者で結果を共有し、どのような特性があるのか考えることができた。
字品	アセスについて目的や活用の仕方など概要を全体で確認することができた。7月に実施した実際の個人特性票と学級分布表を用いて、その分析の見立てを演習として行い、理解を深めることが出来た。今後、アセスの結果をどのように生かしていくかを確認できた。短い時間だったが、参考になったと言って頂けた。
似島学園	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの教育相談でのカウンセリングを振り返り、今後の関わりについて教職員間で再確認して話し合うことができた。 ・ 今まで同様に、生徒の変化に気づき、信頼でき、生徒が相談したくなる教職員であることと本校での生徒指導の在り方について確認できた。

中広	気になる生徒、支援が必要な生徒を具体的に確認することができた。また、9月の教育相談でどのような方法で生徒に返すのがいいかを確認できたことがよかった。
観音	<ul style="list-style-type: none"> ・ hyper-QU の内容や活用方法について理解を深めることができた。 ・ 予想外の生徒を把握して、対応策を検討することができた。
庚午	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人特性票と学級内分布表から気になる生徒をピックアップし、学年会で生徒の情報の交流や対応を検討してもらうことができた。 ・ 教育相談の時期に合わせて、アンケート・集計分析・研修を行い、アセスの結果を活用してもらうことができた。
井口	教育相談実施期間であったため、改めて教育相談の意義などについて共通理解を持つことができた。
古田	教育相談について、先輩教師からの経験的な話だけで進めている傾向があったため、今回の研修を通して、若手は知識を広げることができた。また、ベテランは改めて基本に立ち返ることができたのではないかと考える。
己斐上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悩みや心配事を抱えた生徒の立場に立って、設問を考えることができた。 ・ 悩みや心配事を教員に伝えたい生徒の立場に立って、記入方法を考えることができた。
井口台	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスの基本的な読み取りを多くの教員で確認できた。 ・ 学級内の情報を学年、全体で協議でき、学年をこえて支援する雰囲気づくりを行えた。 ・ 休校の影響もあり、生徒の見取りが例年以上に大切だということを全体で確認できた。
城南	支援の必要な生徒が増えている中で、どのような支援や声掛けが有効なのかをほかの生徒を通して考えていくことができた。また、若い先生方が教育相談の手法を学ぶ機会を広げるという意味でも、伊藤先生の助言をもとに伝えることができたのはよかった。I-check でのアセスメント結果の見方を把握し、今後の教育相談のきっかけや支援に役立てることにつながったと思う。
安西	<p>QU の結果をもとにした研修会でいじめや不登校の未然防止や早期発見のための生徒理解につながり、その支援について考えることができた。</p> <p>教育相談の意義、留意点、形態や方法、カウンセリングの技法など経験の有無にかかわらず確認することができた。定期的に確認することの必要性を感じた。</p>
祇園	それぞれの先生が経験上感じておられることを文章化し、提示することで意識は高まったと思われる。療育センターやふれあい教室などの公的機関だけでなく支援の窓口をお伝えすることができたので、専門家の力を借りることに対するハードルは少し低くなったと思われる。
戸山	QU に関する基本的な考え方を全体で共有することができた。また、小中学校9学年の児童生徒の学級満足度尺度の結果を職員全体で共有し、傾向を確認することができた。

伴	<p>本年度からQUを実施したことにより、学年で研修会を設定し、生徒理解に努めたことが大変良かった。今後、1、2年生は2回目のQUを予定しており、さらに生徒理解に努めていく方向である。</p> <p>また、昨年同様に生徒指導主事から、いじめの認知件数や解消に向けての取組についての説明もあり、生徒指導記録の確認ができたことも良かった。さらに、今年度はふれあい担当教員から、現在の状況や今後の確認の話もあり、全教職員が生徒理解に努めようとする意識が高まったと感じている。</p>
安佐南	<p>研修の成果はまだわからないが、全く登校できない生徒への支援が効果的にできるようになると思う。</p>
長東	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画等を職員室全体で再確認することができた。 ・ 『一人ひとりの子どもと繋がる教育相談』をテーマに、自校のアンケートや教育相談について研修や演習を行うことができ、教職員同士での共通認識を確認する場ができた。
高取北	<p>今年度の教育相談について校内で共通理解することが出来た。</p>
城山北	<p>毎回、東京書籍の方を講師でお迎えしていたが、コロナの関係で人数を最小限にし、学年間での交流を主に行った。交流時間を長めに設定することができ、結果を基に要支援の生徒について詳細な分析をすることができた。</p> <p>また、i-checkの結果を受けてから教育相談を実施することができたので、担任が気になる生徒と話ができただのは良かった。</p>
東原	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員全体で教育相談の意義や傾聴スキルを確認することができた。 ・ 現在教員が抱えている悩みや不安を全体で共有することができた。
大塚	<ul style="list-style-type: none"> ・ デイリーノートの記述や授業の様子等の情報をもとに研修会で示されたカウンセリング技法を駆使して実施した結果、生徒が抱えている悩みを正確に把握し本人の安心感を獲得することができた。その後、教相主任、学年主任、管理職と連携して保護者対応を行い解決に至った。 ・ 多くの教員が教育相談の様子を職員室で語るようになり、生徒の情報共有に役立っている。
高陽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の意義や基本的な進め方について、教職員全体で共通理解を図るとともに、その重要性について再認識することができた。 ・ 子どもたちが抱える3つの課題、すべての子どもを対象にしながらも、SOSが発信できない状況にある子供こそ、支援が必要であることが実感できた。 ・ 教育相談には、“つながる”・“つなげる”という双方の目的があり、重要な教育活動の1つであること、誰もがホッとできる支援であることが実感できた。
落合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談をなぜ行うのか再認識することができた。 ・ 取り組み方法・内容についても確認すべきことが共通理解することができた。 ・ 取り組み体制についても学校全体で確認することができ一部の先生だけでなく全体で生徒と向き合うことの大切さを家訓することができた。
可部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の意義と実際の教育相談を行うにあたって教員が持つべき心構えおよび身につけるべきスキルについて意識統一を行うことができた。 ・ 学校適応感尺度について、理解の向上と夏休み明けに向けての取組内容について意識統一ができた。

亀山	<p>QUのねらいや結果について学年教員で確認するとともに、結果を学級担任だけでなく学年全体で情報交流することが出来た。</p> <p>学級生活不満足生徒と要支援生徒をピックアップして、具体的支援について交流する機会となった。</p>
清和	<p>これまでにいじめアンケートやアセスを行い、教育相談もこれまでに2回実施した。そこで出てきた生徒が抱えている問題などを学年で報告している。</p> <p>今年度は年度当初より仲間づくりのための行事や学級活動をもつことができなかったためか、特に1年生については、最近になって人間関係のトラブルが多く起こっている。3年生では、進路についての悩みが多く、じっくり相談にのることができた。</p> <p>教育相談は担任だけでなく、生徒の希望があれば副担任の先生にも個別に相談できるようにし、学校の全教員で教育相談を進めている。</p>
日浦	<p>コラージュ療法について理解が深まるとともに、自分でも気づかない内面に出会う体験をすることができた。参加した教員からは、「疲れている自分に気付いた」「同じような場面ばかりを選んでしまった」と振り返ることができた。さらに、自分の内面を周囲に話すことで、気持ちが落ち着いたり、親密度が増したりする体験から、コロナ禍において不安を抱える生徒も多い中、授業にコラージュ療法を効果的に組み込むことで、健全な学級づくりに役立つことを確認することができた。</p>
亀崎	<p>9月30日から行われた教育相談週間の中で、傾聴の姿勢などを意識して教育相談を行った。その結果、生徒とたくさんの会話ができたという教師が多く、教師と生徒の人間関係も深めることができた。</p> <p>現在も継続した指導を行うことができています。</p>
三入	<p>困り感を持つ生徒に対して日々対応に追われており、学年や全体でゆっくと共有できる時間が持てない中、Q-Uの分析を通して交流する時間を確保できたのはよかった。研修終了後も、各自で分析を行うなど今後の学級経営に役立てようとする姿が見られた。</p>
口田	<p>三者懇談を前に、各生徒の生活満足度を把握することができた。また、今後の教育相談にも生かすことができると思う。ハイパーQUを年に2回行っており、前回との比較もできた。</p>
船越	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段何気なく行っていた「通りすがり承認・感謝・貢献・改善」を再度確認することができ、より意識して実践するようになった。 ・ 「hyper-Qu」を取り入れ、より多面的に生徒や学級の状況を確認していく資料の1つとして活用している。 ・ 「生活アンケート」を実施する際に、注視するポイントを絞っていくことで、より効果的に教育相談が行えるようになってきているように感じる。
矢野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員ひとりひとりが、ゲートキーパーの役割について理解することができた。 ・ 矢野中の強みである、『多くの教職員がいろいろな場面で生徒に関わることができること』を再確認できた。 ・ 支援は一人で行うものではなく、チームで行うという意識が高まった。いじめ防止委員会の活用。 ・ 話を聞く場面によって、いろいろな聞き方の技法を使い分ける必要があることを伝えられた。

瀬野川 東	<p>コロナによる休校続きで生徒の気持ちなどがどのように変化しているのかを考える良い機会となった。生徒のメンタルの小さな変化にも気づき、トラブルの未然防止のための取り組みはもちろん、コロナの対応に学校全体で対応していこうという機運を高めることが出来た。</p>
三和	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ事案を防ぐこと、また、小さなことでも見逃すことがないように学校全体で意識統一することができた。 ・ 新型コロナウイルスの影響もあってか、欠席・早退や不登校の生徒が例年より多く、心身ともに心配な生徒が増えている。そんな中、アセスを実施することで、生徒の理解につなげ、スクールカウンセラー等と連携しながら対応することができた。
五日市 観音	<p>本校では、昨年度から定期的な教育相談の持ち方を変更した。従来の方法では担任が年間3回を行うものであったが、昨年度からは1回目担任、2回目学年教員、3回目全教員で行う方法へと変更した。そのことで生徒はいろいろな教員と繋がるきっかけを作るチャンスが生まれ、学校全体で教育相談を進める土壌ができつつある。このことを足がかりに今回の研修を組むことで、教育相談の重要性に教員が気づき今後に生かせる研修になったと思う。</p>
五月 が丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスの結果を学年で共有し、生徒理解に努めることができた。 ・ 分析結果より、夏休み明けからの支援の方針を考えることができた。 ・ 11月にもう一度アンケートを実施することで、要支援生徒の変化を見取ることができた。
美鈴 が丘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の意義や留意点・重要性について、共通認識を持って第2回教育相談に当たることができた。 ・ 自殺ゲートキーパーとしての役割を確認することで、生徒の変化（発言や行動）を見逃さないことや傾聴の留意点について再認識することができた。また、担任以外との教育相談を実施することの意義を確認できた。
五日市	<p>課題を抱えた生徒の対処の仕方を知ることにより、教職員が心にゆとりを持って生徒に接することができるようになった。また、教職員一人ひとりがゲートキーパーとしての役割を理解しながら生徒一人ひとりと接するという気構えを持つと同時に、ASSESSによる分析を通して具体的な支援を話し合うことでチーム学校としての動きを共有することができたことが成果である。</p>
五日市 南	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスの内容や活用方法について改めて理解することができた。特に、新任教員等の若い先生方や臨時採用教員の先生方に実際の演習を交えて研修できた点は良かったと考える。 ・ アセス研修を通して、自分の生徒への支援の見立てが理にかなったものであると実感できる場面・意外な生徒のSOSを発見できる場面が共にあることでアセスの活用の意義を見出すことができると考える。 ・ 7月に実施したアンケート結果について8月に研修・演習を行うことができたことで、生徒の状況把握が夏休み明けの学級経営にすぐに生かすことができる。

城山	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任以外の教員による教育相談を行なうことにより、多くの教員が生徒と親密につながる機会が増えた。 ・ 教員のネットワークを広げ、情報共有を行ない、記録に残し、再活用できるようになった。引き継ぎシートへ活用できた。
砂谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は、新型コロナウイルス感染予防の休校による授業時間確保のため、研修の時間をじっくりとることができなかったが、2回に分けて行ったので、それぞれねらいを明確にして研修を行うことができた。 ・ 生徒の実態については昨年度のデータを有効活用しながら、今年度との比較から分析することができた。

高・中等・特別支援学校

基町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校生徒の教育相談の実態把握ができた。 ・ 「いじめ見逃しゼロ」「ゲートキーパーとしての生徒対応の流れ」を確認・情報共有し今後の指導に役立てた。
大手町商	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲートキーパーという言葉を知った方もおられ、新たな知識を得るとともにその役割の再確認ができた。また、個々の教員がそういった資質を持つことが自殺予防の原点であることを学ぶことができた。 ・ SCについてはその学校における役割の確認と今後の利用の方法を考えるきっかけとなった。
沼田	<p>顕在している障害や困りごとへの理解・対処だけでなく、予測を超えているために教員が気づかなかった該当生徒のつまずきを知り、今後の対応に生かした。緊急性のある事象（自傷行為）に関する基礎的な知識を共有できた。</p>
広島みらい創生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の教育相談体制について周知することができた。 ・ 6月からの学校再開を前に、配慮を必要とする生徒について、また具体的な支援方法について情報を共有し、周知することができた。 ・ 休校による授業遅れを取り戻すことのみには注力するのではなく、コロナ禍の中で頑張って登校する生徒をねぎらう気持ちをもってあたたかく生徒を迎えることを教職員の共通認識として持つことができた。 ・ 新しく本校に赴任された多くの先生方に、本校の生徒の実態について具体的なイメージを持っていただくことができた。
中等教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスにより、生徒の置かれている現状を分かりやすく可視化することができた。 ・ 学級分布表と個人票から、適応していると思っていた生徒が自分では適応していないなど、普段の学校生活だけでは把握できないこともあるということが理解でき、アセスを活用しながらの教育相談の重要性を認識した。
広島特別支援	<p>本校では、連絡帳で保護者との連携を実施してきたが、初めて高等部として、クラスアンケートを実施し、その後全生徒に対し教育相談を行った。限られた時間ではあったが、生徒の内面を聞き取ったり思いを受け止めたりでき効果があった。今後も継続して実施していきたい。</p>